

国語科「読むこと」

単元評価事例集

①	小・1年	単元名	こんなにちがうよ どうぶつの赤ちゃん ～どうぶつの赤ちゃんをくらべてみよう～
		教材名	「どうぶつの赤ちゃん」
②	小・1年	単元名	「がまくん、かえるくんシリーズ」をよんで、ふたりのすてきを「すてきたからばこ」でしようかいしあおう。
		教材名	「おてがみ」
③	小・2年	単元名	生き物の成長すごろくで、見付けたおどろきを伝えよう
		教材名	「さけが大きくなるまで」
④	小・2年	単元名	「レオ＝レオニ『〇〇』号」(お話列車)でおうちに人をお話の旅に招待しよう!
		教材名	「アレクサンダとぜんまいねずみ」
⑤	小・3年	単元名	「変身!大豆」図かんをつくろう ～わたしが編集者!～
		教材名	「すがたをかえる大豆」
⑥	小・3年	単元名	心が「ずきん!」としたところを紹介しよう
		教材名	「ちいちゃんのかげおくり」
⑦	小・4年	単元名	クイズのとびらで生き物の不思議をおうちに人に紹介しよう
		教材名	「花を見つける手がかり」
⑧	小・4年	単元名	読書新聞でお気に入りの物語を紹介しよう。
		教材名	「ごんぎつね」
⑨	小・5年	単元名	読んでまとめよう。私たちの「メディアとの関わり方提言書」
		教材名	「想像力のスイッチを入れよう」
⑩	小・5年	単元名	本の帯を作ってお気に入りの椋鳩十作品を中学生におすすめしよう
		教材名	「大造じいさんとガン」
⑪	小・6年	単元名	絵画コメンテーターになって、ミニ「鳥獣戯画展」をひらこう
		教材名	「『鳥獣戯画』を読む」
⑫	小・6年	単元名	物語を読んで、命について考えたことや感じたことを座談会で聴き合おう
		教材名	「海の命」
⑬	中・1年	単元名	文章を要約して、人間の生活と生き物や環境との関わりを伝えよう
		教材名	「幻の魚は生きていた」
⑭	中・1年	単元名	「本のおすすめレター」で〇〇中の生徒に、ヘルマンハッセの魅力を伝えよう。
		教材名	「少年の日の思い出」
⑮	中・2年	単元名	二つの説明文を読み比べて考えたことを伝え合おう。
		教材名	「モアイは語る ー地球の未来ー」
⑯	中・2年	単元名	「走れメロス」のエッセンスはここだ! ～作品全体と場面との関わりに着目し、魅力を伝えよう～
		教材名	「走れメロス」
⑰	中・3年	単元名	教科書レポートを作成しよう
		教材名	「作られた『物語』を超えて」
⑱	中・3年	単元名	戦後〇年の思いをポスターにしよう
		教材名	「挨拶」

「単元評価表」の見方

「単元評価表」は、単元ごとに観点別評価を行う場合の、単元の評価規準と学習活動に即した判断基準を、「指導と評価の計画」の中に位置付けて示したものです。

ここでは、単元評価事例表⑫「物語を読んで、命について考えたことや感じたことを座談会で聴き合おう」（第6学年の文学的文章教材を扱う単元）を例に、「単元評価表」に示す11の項目について説明します。

① 重点指導事項

単元の重点指導事項は、年間指導計画や児童生徒の実態を踏まえ、新学習指導要領の国語科の内容に示されている、「知識及び技能」に関する事項と「思考力、判断力、表現力等」の「C 読むこと」領域に関する事項からそれぞれ設定します。

【新学習指導要領 国語科の内容】

○「知識及び技能」			
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項			
(2)情報の扱い方に関する事項			
(3)我が国の言語文化に関する事項			
○「思考力、判断力、表現力等」			
A 話すこと・聞くこと	学習過程	(1)	(2)
B 書くこと		指導事項	言語活動例
C 読むこと			

【単元評価事例表⑫より】

○「知識及び技能」

- ・(1)オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。
- ・(3)オ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

○「思考力、判断力、表現力等」

- ・C(1)エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。
- ・C(1)オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
- ・C(1)カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。C(1)カ

② 単元名

単元名は、「思考力、判断力、表現力等」に関する指導事項、教材の内容、言語活動の三点を関連付けて表現します。その際、児童生徒に言語活動のゴールイメージが持ちやすいように留意します。

【単元評価事例表⑫より】

- ・物語を読んで、命について考えたことや感じたことを座談会で聴き合おう。

③ 何を学ぶか（教材の特性）

国語科の学習対象は、読んだり書いたり話し合ったりする内容（様々な事物、事柄、経験、思い、考え等）そのものではなく、それらの内容を「どのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのもの」（「小学校学習指導要領国語科の改定のポイント」）です。このことを踏まえ、「何を学ぶのか」の欄には、教材文を読むことを通して、言葉を根拠に理解することや言葉そのものの意味や働きに等について考えることについて記します。

【単元評価事例表⑫より】

- ・登場人物相互の関係性から、それぞれの行動や会話の意味を考えること。
- ・感動を生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現について自分の考えをもつこと。

④ どのように学ぶか（言語活動、読みの観点）

国語科は、言語活動を通して指導事項を指導します。つまり言語活動は指導の手立てであり、児童生徒にとっては学ぶ方法です。したがって、「どのように学ぶか」の欄には、言語活動の具体を示します。また、新学習指導要領で示された「言葉による見方・考え方」に関連付けて表記することも考えられます。

【単元評価事例表⑫より】

- ・様々な本（立松和平いのちシリーズ）を読み、暗喩表現等に注目して、考えたことや感じたことをもとに自分の考えをまとめ、複数で話し合い、自分の考えを深める。

⑤ 何ができるようになるか（資質・能力）単元の評価規準

単元の評価規準は、国立教育政策研究所「評価規準の作成のための参考資料」の「内容のまとめりごとに評価規準に盛り込むべき事項」を参考にした上で、単元の内容（具体的な言語活動、教材の内容）に即して設定する。扱う教材や実際の学習活動によって具体的に表現するよう留意する。

【単元評価事例表⑫より】

- 〔知識及び技能〕
- ・文や文章から、命を象徴的に表している言葉やメッセージを感じさせる表現に気付いている。
 - ・関連する複数の物語を読み、読書が自分の考えを広げることに気付いている。
- 〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・象徴性のある言葉や物語からのメッセージを意識させる表現などに注目し、人物像や物語の全体像を想像している。
 - ・物語を読んで、「命」について考えたことを読書座談会で語り合い、自分と友達との考え方、感じ方の共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げている。
- 〔主体的な学習態度〕
- ・文章を読んで、理解したことに基いて自分の意見をまとめようとしている。
 - ・読書座談会で「命」について語り合うため、複数の関連図書を読もうとしている。

⑥ 必要な読むこと的能力（中心となる既習事項）

単元で扱う教材文を読む上で、発揮されることを期待するこれまで身に付けた読む能力を示します。

【単元評価事例表⑫より】

- ・登場人物の行動や気持などについて、叙述をもとにとらえること。
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを他者と共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

⑦ 学習過程及び学習活動

学習活動は、新学習指導要領に示す「読むこと」の学習過程を基本に据え、言語活動に取り組むことで、指導事項に即した「読む」プロセスが充実するように留意して設定します。（単元に応じて、並行読書等の位置付けを工夫します。）

【単元評価事例表⑫より】

時間	学習過程	学習活動	
1	見通し	・「山の命」読書座談会のVTRを視聴し、物語を読んで語り合うことよき気付き、学習の見通しを持つ。	並 行 読 書
2～3	構造と内容の把握	・教材文「海の命」を読んで、「命」をキーワードに登場人物の関係図を作成し、あらすじをまとめる。	
4～5	精査・解釈	・「海の命」読書座談会で互いの考えを聴き合うために、登場人物の相互関係や「命」を意識させる表現等を関連付けて一番心に響いた場面を決める。	
6	考えの形成	・「一番心に響いた理由」について自分の考えをまとめる。	
7	共有	・「海の命」読書座談会に取り組み、「一番心に響いた場面」を取り上げながら「命」について自分の考えを深める。【	
8～9	共有	・「立松和平命シリーズ」読書座談会に取り組み、複数の作品を関連付けながら「命」について自分の考えを深める。	

⑧ 評価資料

評価資料は、評価の対象として可視化されたものを示します。

【単元評価事例表⑫より】

- ・ノート「一番心に響いた場面理由」の記述

⑨ 判断基準

単元の評価規準を基に、学習場面に即して具体化した「学習活動に即した評価規準」を「判断基準」として示します。いわゆる「評価規準（おおむね満足できる状況）」は判断基準(B)で示し、「十分満足できる状況」を判断基準(A)、「努力を要する状況」を判断基準(C)で示します。客観的な評価を実現させるための工夫として、質的変容を量的な視点からも捉えられるように各基準に盛り込む内容を工夫します。（※各判断基準を作成する際には、まず判断基準（B）から考えます。）

【単元評価事例表⑫より】

判断基準(B)

- ・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、一人の人物に焦点をあてるとともに、「命」について考えさせられた表現を二つ取り入れて述べている。

判断基準(A)

- ・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、複数の人物に焦点を当てるとともに、「命」について考えさせられた表現を3つ以上取り入れて述べている。

判断基準(C)

- ・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、一つの叙述のみを根拠に理由を書いている。

⑩ (B)、(A)と評価する例

児童生徒の学習活動に即した思考プロセスを“なぞる”ことで、模範解答をイメージして作成します。

【単元評価事例表⑫より】

「(B)と評価する例」

- ・5場面を選んだ理由

太一は、「この大魚は海の命だ」と思い、いつか殺そうと思っていたこの魚にやっと出会ったのに殺さなかった。太一の成長がわかるとともに、そののち村一番の漁師で在り続けるもとなった出来事が描かれているから。

「(A)と評価する例」

- ・5場面を選んだ理由

与吉じいさんの「千匹に一匹～」から学んだ太一は、「この大魚は海の命だ」と思い、いつか殺そうと思っていたこの魚にやっと出会ったのに殺さなかった。太一の成長がわかるとともに、そののち村一番の漁師で在り続けるもとなった出来事が描かれているから。与吉じいさん一番伝えたかったことが伝わり喜んでいと思うから。

⑪ 支援の手立て

学習状況が判断基準(C)にあたる児童生徒を判断基準(B)の状況に導くための具体的な方法を示します。どのタイミングで支援を行うか吟味が必要です。学習活動中だけでなく、評価資料を確認した後に個別指導を行うことも考えられます。

【単元評価事例表⑫より】

- ・選んだ場面からだけでなく、他の場面の叙述からも結びつくところはないか、読み返すよう促す。

読むこと		小学校 第【1】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 						
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) キ 丁寧な言葉と普通言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 (2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 						
言語活動	動物の赤ちゃんのことを説明した文章を読み、わかったことや考えたことを述べる活動。							
単元名	こんなにちがうよ どうぶつの赤ちゃん～どうぶつの赤ちゃんをくらべてみよう～							
教材	「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書1下)							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの視点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
叙述から時間的な順序や事柄の順序などを捉えること。	動物の赤ちゃんの違いがわかるビッグリスト(一覧表)をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 敬体で書かれた説明を理解している。(1)キ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の赤ちゃんを比べ、そのちがいについてまとめている。(ア) 目的に応じて、大事な言葉や文を書き抜いている。(ウ) 		<ul style="list-style-type: none"> 動物の赤ちゃん ビッグリストを作るために、動物の赤ちゃんについて説明されている文章を読み、進んで比べようとしている。 			
必要な読むことの能力 (中心となる既習事項)		文中の主語と述語の関係に気付くこと。						
時間 学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 (場面・方法)	評価事例					
			おおむね満足(B)		十分満足(A)		努力を要する(C)	
見直し	<ul style="list-style-type: none"> 先生の話の聞いたり、モデルを見たりして、学習の課題をつかむ。 単元の見通しを持ち、学習の計画を立てる。 	【主体的な学習態度】 ふり返り	判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
学習への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。								
構造と内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、動物の赤ちゃんの様子を表している言葉を見付ける。 	【知識・技能、読む能力】 教科書、発言	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書かれている動物の赤ちゃんの様子に線を引きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書かれている動物の赤ちゃんの様子に線を引きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書かれている動物の赤ちゃんの様子すべてに線を引きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書かれている動物の赤ちゃんの様子すべてに線を引きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に書かれている動物の赤ちゃんの様子に線を引きしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の作成したモデルを手がかりに絵と文を関連付けながら一緒に読んでいく。
<ul style="list-style-type: none"> 子ねこぐらいの大きさ 目や耳はとじたまま よわよわしくて おかあさんにあまりにいていません。 じぶんであるくことができません。 よそへいくときは、おかあさんに、口にくわえてはこんでもらう うまれて二か月くらいはおちちだけのんでいます やがておかあさんのとったえものをたべはじめます 一年ぐらい えものとりかたを覚えます。 じぶんでつまえてたべようになります。 								
精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんを比べる。 	【知識・技能、読む能力】 ワークシート ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんをくらべて、そのちがいについてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 項目ごとにライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの様子を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんをくらべて、そのちがいについてまとめ、気づいたことまで書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんは生まれてすぐに立えないのに、シマウマの赤ちゃんはすぐに立て、びっくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章から読み取れる内容のうち半分程度を比べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカード(書き方の見本)を渡す。
精査・解釈 考えの形成 共有	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ動物の赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんを比べる。 	【知識・技能、読む能力】 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> 自分の動物の赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんを比べて、同じところやちがうところを読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんをくらべたら、ライオンの赤ちゃんは子ネコぐらいの大きさ、イルカの赤ちゃんは一メートルぐらいと書いていたの、イルカの赤ちゃんのほうが大きいことがわかりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の動物の赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんを比べて、同じところやちがうところを読み取って、自分とも比べている。 	<ul style="list-style-type: none"> ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんをくらべたら、ライオンの赤ちゃんは子ネコぐらいの大きさ、イルカの赤ちゃんは一メートルぐらいと書いていたの、イルカの赤ちゃんのほうが大きいことがわかりました。イルカの赤ちゃんは、生まれたときからぼくと同じぐらいの大きさでびっくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の動物の赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんについてわかったことを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカード(書き方の見本)を渡す。前時のワークシートを見なおさせる。

読むこと		小学校 第【2】学年									
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ・ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ・カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 									
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> ・(1) オ 身近なことを表す語句を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ・(1) カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ・(2) ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ・(3) エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 									
言語活動	・事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動										
単元名	・生き物の成長すごろくで、見つけたおどろきを伝えよう。										
教材	・「さけが大きくなるまで」(教育出版第2学年) ・他 生き物について書かれた本や図鑑										
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準									
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)				3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物について図鑑に書かれている情報から時間的な順序に着目しながら必要な情報を見つけて読むこと。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長やその過程での発見や驚きについて、すごろくの盤面に表して紹介し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時間や場所、様子を表す言葉などを表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1) オ ・文の中における主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりしている。(1) カ ・図鑑の見出しや写真と解説など情報と情報との関係について気をつけて読んでいる。(2) ア ・生き物図鑑にも様々な種類があることを知り、読書に親しんでいる。(3) エ 				<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長に関わって時間的な順序などを考えながら内容の大体を捉えている。(ア) ・生き物の成長の様子に関わる語や文を考えて選んでいる。(ウ) ・生き物の成長に関わる文章を読んで感じた驚きや感動を共有している。(カ) 		<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の成長についての驚きや感動をすごろくにまとめようとしている。 	
必要な読むことのできる能力 (中心となる既習事項)		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ・共通と相違など、情報と情報との関係について理解すること。 									
時間	学習過程	学習活動	評価資料	評価事例							
				おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)			
				判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て		
1 2	見通し	・学習の目的や内容などの見通しを立てる。	【主体的な学習態度】	学習への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。							
3 4	構造と内容の把握	・成長すごろくでおどろきを捉えるために、時間を表す言葉に着目して読み、線を引いたり付箋に書き出したりする。	・時間を表す言葉や付箋に書き出す。[付箋、ふり返し]	・生き物の成長に関わって時間的な順序などを考えながら内容の大体を捉えている。時間的な順序に関わる事項の6割以上は捉えている。	①秋になるころ ②やがて ③冬の間に ④春になるころ	・生き物の成長に関わって時間的な順序などを考えながら内容の大体を捉えている。時間的な順序に関わる事項の8割以上は捉えている。	①秋になるころ ②やがて ③冬の間に ④やがて ⑤春になるころ ⑥いく日もいく日も ⑦一ヶ月くらい ⑧海の水に慣れ ⑨3, 4年	・生き物の成長に関わって捉えた言葉が、時間的な順序に関わる事項の半分以下である。	・挿絵や時間に関わる言葉に着目させながら、捉えられるようにする。		
5 6	精査・解釈	・成長すごろくでおどろきを捉えるために、生き物の様子を表す言葉(色・形・大きさ)に着目して読み、線を引いたり付箋に書き出したりする。	・生き物の成長の様子を表す言葉や付箋に書き出す。[付箋、発言、ふり返し]	・生き物の成長の様子に関わる語や文を選んでいる。必要な要素の6割以上は捉えている。	①たまごを産みに海から川へ ②たまごを産む ③3センチのたまご、ふくろ	・生き物の成長の様子に関わる語や文を選んでいる。必要な要素の8割以上は捉えている。	①たまごを産みに海から川へ ②尾びれをふるわせ川底を掘るたまごをたくさんうみ、うめる ③3センチのたまご赤いぐみのみのような栄養のふくろ	・生き物の成長の様子に関わる語や文を選んでいるが、それ以外の言葉や文も選んでいる。	・挿絵や色、形、大きさに関わる言葉に着目させながら、捉えられるようにする。		
7	共有	・成長すごろくでおどろきを捉えるために、生き物図鑑を読み「すごいところ」を見つける。	・生き物についての文章を読んですごいと感じたことを付箋に書き出す。[付箋、発言、ふり返し]	・生き物についての文章を読んですごいと感じたことを共有している。	・さけは、海と川の水がまざるところで1ヶ月くらい過ぎるのがすごい。	・生き物についての文章を読んですごいと感じたことを複数の文章から見付けたり、生き物の成長の様子と関連づけたりしながら共有している。	・さけは、たまごを掘って埋めたり、海の水に慣らすために海と川の水がまざるところで1ヶ月くらい過ぎたりと生き残るために知恵がすごい。	・さけの成長には直接関係のところから「すごい」と感じている。	・生き物についての文章を読んですごいと感じたことを見付けられない。		
8 9	共有	・生き物成長すごろくで見つけたすごいを伝える。	・生き物についての驚きや感動をすごろくの盤面に表す。[すごろく、発言、ふり返し]	・生き物についての文章を読んで感動したことを共有している。	・さけは、大きくなったらまた川に戻ってたまごを産むので、命がぐるぐる回っているのがわかった。	・生き物についての複数の文章を読み新たな気付きを見いだしたり、生き物の成長の様子と関連づけたりしながら、驚きや感動を共有している。	・さけは生き残るための知恵を身に付けているが、他の生き物も同じように知恵があり、命がつながっているのがわかった。	・生き物についての文章を読んで感動したことや感動したことを一方的に伝えている。	・友だちの驚きや感動を聞いた、参考にさせたりしながら伝えられるようにする。		

読むこと		小学校 第【2】学年								
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 								
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 (3) エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 								
言語活動	・物語を読んで、内容や感想などを伝え合う活動									
単元名	・「レオ＝レオニ『○○』号」(お話列車)でうちの人をお話の旅に招待しよう!									
教材	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」 ・ 他 レオ＝レオニ作品									
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準								
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)					
・物語を読み、大まかにあらすじ捉えたり、好きな一文とそのわけを伝え合ったりしながら、物語の内容について自分の考えをまとめていくこと。	・レオ＝レオニ作品を様々に読み、内容や感想などを伝え合うこと。	・文の中における主語と述語関係に気付いている。 (1)カ ・同じ作者作品に親しみ、いろいろな作品があることに気付いている。 (3)エ	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 (イ) ・好きな一文とそのわけについて登場人物の行動を中心に場面の様子や場面(エ) ・一番好きなレオ＝レオニ作品について文章の内容と自分の体験とを結びつけて感想を持っている。 (オ)		・自分の大好きな本やお気に入りの場面などを見つけて、登場人物の行動や場面の様子に着目して想像を広げながら伝え合おうとしている。					
必要な読むこと的能力 (中心となる既習事項)		<ul style="list-style-type: none"> 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 								
時間	学習過程	学習活動	評価事例							
			評価資料	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)		
				判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て	
1 2	見通し	学習の目的や内容などを見通しを立てる。	【主体的な学習態度】 学習への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。							
3	構造と内容の把握	・お話の旅で紹介するお話を選ぶために「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読み、場面の様子や登場人物など内容の大体を捉える	・登場人物や、場面の展開など挿絵と付箋を使っておおまかに説明している。 (付箋を使った説明)	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の登場人物や、場面の展開など挿絵と関連づけながらおおまかに捉えている。	・アレクサンダとぜんまいねずみのウィリーは友だちになりました。ウィリーは捨てられそうになりました。アレクサンダはとがげにウィリーをねずみに変えてもらいました。	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の登場人物や、場面の展開など挿絵と関連づけながら話の筋が通るように捉えている。	・アレクサンダとぜんまいねずみのウィリーは友だちになりました。アレクサンダはウィリーをうらやみました。ウィリーは捨てられそうになりました。アレクサンダはとがげにウィリーをねずみに変えてもらい二ひきは夜明けまで踊りました。	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の登場人物や、場面の展開など挿絵から捉えている。	・挿絵を手がかりに登場人物や出来事を捉えさせ、文章から挿絵にあった言葉と一緒に読みながら捉えさせしていくようにする。	
4 5	構造と内容の把握	・お話の旅で紹介するお話を選ぶために、レオ＝レオニ作品を様々に読み、場面の様子や登場人物など内容の大体を捉える	・登場人物や、場面の展開など挿絵と付箋を使っておおまかに説明している。 (付箋を使った説明)	・「レオ＝レオニ作品」の登場人物や、場面の展開など挿絵と関連づけながらおおまかに捉えている。	・スイミーはまっくらい魚です。マグロがきょうだいたちを飲み込みました。スイミーが大きい魚の目になりました。そして、大きい魚を追い出しました。	・「レオ＝レオニ作品」の登場人物や、場面の展開など挿絵と関連づけながら話の筋が通るように捉えている。※チョイスが適切	・小さな赤い魚たちが海でくらしていました。スイミーだけまっくらでした。ある日マグロがきょうだいたちを飲み込みました。スイミーみんなで大きな魚になって自分が目になるという方法を考えました。そして、大きい魚を追い出しました。	・「レオ＝レオニ作品」の登場人物や、場面の展開など挿絵から捉えている。	・挿絵を手がかりに登場人物や出来事を捉えさせ、文章から挿絵と一緒に読みながら捉えさせしていくようにする。	
6	精査・解釈	・お話の旅での紹介に向け、「アレクサンダとぜんまいねずみ」を読み、好きな一文とその理由をはっきりさせる。	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の好きな一文と選んだ理由をまとめる。 (付箋)	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の好きな一文を中心に登場人物の行動や場面の様子や関係づけながら想像したことを理由にまとめている。	・「ウィリーをぼくみたいたいねずみにかえてくれる？」ウィリーを助けるために、大事な小石を使ったアレクサンダがやさしいと思ったから。	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の好きな一文を中心に登場人物の行動や場面の様子など複数の叙述と結び付けながら想像したことを理由にまとめている。	・「ウィリーをぼくみたいたいねずみにかえてくれる？」人間に大事にされたくて自分のために使うつもりだった大事な小石をウィリーを助けるために使ったアレクサンダが好きだから。	・「アレクサンダとぜんまいねずみ」の好きな一文を中心に挿絵をもとに想像したことを理由にまとめている。	・挿絵を手がかりに主な出来事や登場人物の言動に付箋を貼らせたり、好きな理由と一緒に考えたりしながらまとめるようにする。	
7	精査・解釈	・お話の旅での紹介に向け、一番好きな「レオ＝レオニ作品」を読み、好きな一文とその理由をはっきりさせる。	・「レオ＝レオニ作品」の好きな一文と選んだ理由をまとめる。 (付箋)	・「レオ＝レオニ作品」の好きな一文を中心に登場人物の行動や場面の様子や関係づけながら想像したことを理由にまとめている。	・「ぼくが、目になるろう」いいアイデアを出したスイミーがかっこいいから。	・「レオ＝レオニ作品」の好きな一文を中心に登場人物の行動や場面の様子など複数の叙述と結び付けながら想像したことを理由にまとめている。	・「ぼくが、目になるろう」こわがっていたスイミーが勇気とアイデアを出して大きい魚を追い出したのが、かっこいいと思ったから。	・「レオ＝レオニ作品」の好きな一文について挿絵をもとに想像したことを理由にまとめている。	・挿絵を手がかりに主な出来事や登場人物の言動に付箋を貼らせたり、好きな理由と一緒に考えたりしながらまとめるようにする。	
8	考えの形成	・お話の旅での紹介に向け、自分の選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由をはっきりさせる。	・自分の選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由をまとめている。 (付箋)	・自分の選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由について自分の体験と結びつけながらまとめている。	・私はスイミーが好きです。スイミーがみんなと力を合わせるところがかっこいいと思ったからです。運動会でみんなをまとめてくれた団長みたいでかっこいいと思ったからです。	・自分の選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由について自分の体験や他のレオ＝レオニ作品を読んだ体験などと結びつけながらまとめている。	・私はスイミーが好きです。スイミーは他の魚と違うけどそれを生かしてみんなで力を合わせるところがかっこいいと思ったからです。フレデリックもお話うまくて似ていると思いました。	・自分の選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由をまとめている。自分の体験や読書体験をまとめている。	・友だちの選んだ「レオ＝レオニ作品」の好きな理由を聞いたり、自分の体験を想起させたりさせながらまとめるようにする。	
9			おうちの人へ紹介する。							

読むこと		小学校 第【3】学年							
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えること。 							
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (3) オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。 							
言語活動	・学校図書館などを利用し、情報を得て、分かったことなどをまとめて図鑑にする活動								
単元名	・「変身!大豆」図かんをつくらう～わたしが編集者!～								
教材	・「すがたをかえる大豆」(光村図書3下)								
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの視点)	何ができるようになるか(資質・能力):単元の評価規準							
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
<ul style="list-style-type: none"> 中心となる語をとらえて段落相互の関係を考えること。 		<ul style="list-style-type: none"> 変身図鑑を作るために、目次、索引などを利用し必要な本の必要な箇所を選んでいる。 (3) オ 	<ul style="list-style-type: none"> 変身図鑑を作るために中心となる語に注意して整理しながら読んでいる。 変身図鑑を作るために、情報源となる文章を読み、書き手の考えやその理由や事例がどこに書かれているか、叙述を基に判断している。 (ア) 		<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を集めるために本を積極的に読んだり、調べたことをまとめようとしていたりしている。 				
必要な読むこと的能力		<ul style="list-style-type: none"> 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえること。 							
時間 学習過程	学習活動	評価資料 (観点) ・(場面・方法)	評価事例					努力を要する(C)	
			判断基準	Bと評価する例		判断基準	Aと評価する例		判断基準
1	見直し	<ul style="list-style-type: none"> モデルを見て、学習の課題をつかむ。 単元の見直しを持ち、図鑑づくりの計画を立てる。 (編集会議1) 	【主体的な学習態度】	学習への見直しをもち、意欲的に取り組もうとしている。					
2 3	構造と内容の把握	<ul style="list-style-type: none"> 大豆が何に変身するか情報収集する。 (編集会議2) 	【知識・技能、読む能力】	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある食品名と、変身の仕方をマトリックス表にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 豆(いる。にる。) きなこ(こなにひく。) とうふ(大豆にふくまられるえいようだけを取り出す。) なっとう(ナットウキンの力をかりる。) みそ、しょうゆ(コウジカビの力をかりる。) えだ豆(わかくてやわいうちに取り入れ、さやごとゆでる。) もやし(たねを日光に当てず水だけで育てる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある食品名と、変身の仕方をマトリックス表にまとめ、さらに他の本からわかったことも書き込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> Bに加え 豆乳(大豆を半日くらい水につける。つけ汁ごとミキサーでかく。10分くらい弱火でにる。布でこす。) あつあげ(とうふの水をよくきって、油であげる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 大豆が変身した食品名だけ見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が作成した見本をてがかりに、段落を意識させ、写真と関連付けながら見つけるように促す。
4	精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を考えながら、作り方をキーワードに図鑑の目次を決める。 (編集会議3) 	【知識・技能、読む能力】	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文章に出てくる順に作り方をキーワードに、目次を決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①いる。にる。 ②えいようを取り出す。 ③キンの力をかりる。 ④カビの力をかりる。 ⑤わかいうちに取り入れる。 ⑥日光に当てず水だけで育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> Bに加えて、他の本からわかったことを加えて、決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①いる。にる。 ②くだいてにる。 ③えいようを取り出す。 ④とうふを油であげる。 ⑤キンの力をかりる。 ⑥カビの力をかりる。 ⑦わかいうちに取り入れる。 ⑧日光に当てず水だけで育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品名を目次にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの食品がどのように作られているか、作り方を表す言葉を見付けるよう促す。
5	精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> 大豆が煮豆に変身する順番を整理する。 (編集会議4) 	【知識・技能、読む能力】	<ul style="list-style-type: none"> 図鑑をつくるために必要なことをいろいろな本を読んで調べ、大豆が煮豆に変身する順番を整理し、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> に豆 ①豆をあらう。 ②水につけてやわらかくする。 ③火にかけにる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図鑑をつくるために必要なことをいろいろな本を読んで調べ、大豆が煮豆に変身する順番を整理し、量や時間などを加えくわしくまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> に豆 ①豆をあらう。 ②7～8時間、水につけてやわらかくする。 ③火にかけ弱火で3～4分にる。 ④アクをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書だけを読んで、大豆が変身する順番を整理し、まとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の本を紹介し、教科書と比べさせる。
6 7	精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> 自分が担当した食品の変身する順番を整理する。(グループ会議) 	【知識・技能、読む能力】	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことをいろいろな本を読んで調べ、大豆が自分の担当する食品に変身する順番をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> (例)みそ ①むした米かむぎにコウジカビをまぜる。 ②しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜる。 ③①と②をまぜる。 ④風通しのよいところに半年から1年おいておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことをいろいろな本を読んで調べ、大豆が変身する順番を整理し、量や時間などを加え、さらにくわしく書いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> (例)みそ ①大豆をよくあらひ、大豆の3～4倍の水に12時間ひたす。 ②むした米かむぎにコウジカビをまぜる。 ③①の大豆の水をきり、新しい水を加えてやわらかくなるまで弱火でにる。 ④しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜる。 ⑤②と④をまぜる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の情報だけで、大豆が変身する順番をまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当した食品がのっている本を紹介する。
8	ふり共有	<ul style="list-style-type: none"> 各グループがまとめたページを発表し合い、「変身!大豆」図鑑を完成する。(最終編集会議) 	【主体的な学習態度】	自分の作成したページを進んで紹介している。					

読むこと		小学校 第【3】学年							
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	・エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて、具体的に想像すること。 ・オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。							
	【知識・技能】	・(1)ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。							
言語活動	・物語を読み、感じたり考えたりしたことを伝え合う活動								
単元名	・心が「ずきん！」としたところを紹介しよう。								
教材	・「ちいちゃんのかげおくり」(光村図書3下)								
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力):単元の評価規準							
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
・戦争当時の様子やそこに生きた人々の気持ちを想像しながら読むこと。	・「ずきんカード」に自分のずきんと心に響いたところ、その理由、戦争と平和について感じたことをまとめ、友だちに紹介する。	・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、相手によく伝えるように言葉を選んで紹介している。(1)ア)	・心にずきんと響く叙述を紹介するため、場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を想像して読んでいる。(エ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを書いている。(オ)		・心に響く叙述を紹介するため、本を繰り返し読むなどして作品を味わったり、心に響く理由を紹介し合ったりしようとしている。				
必要な読むこと的能力		・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ・文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。							
時間	学習過程	学習活動	評価事例						
			評価資料 【観点】	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
			判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て	
1	見直し	・モデルを見て、学習の課題をつかむ。 ・単元の見直しを持ち、学習計画を立てる。	【主体的な学習態度】 ・ふり返り	学習への見直しをもち、意欲的に取り組もうとしている。					
2 3	構造と内容の把握	・戦争の恐ろしさを伝えるために、「ちいちゃんのかげおくり」を読み、想像した情景を色で表す。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート (決めた色とその理由) (ふり返り)	イメージカラーの理由について、二つの場面を結びつけて述べている。	町を燃やした火の色、お兄ちゃんの足から出た血の色は赤で、こわさが伝わる色だから。	イメージカラーの理由について、三つ以上の場面を結びつけて述べている。	町を燃やす火の色やお兄ちゃんがひどいけがをしたときに出た血の色、消えてしまった命の色で、戦争の恐ろしさを伝えたいから赤。	自分が好きなイメージカラーを決めている。	叙述をもとにするよう、思いを聞き取りながら、一緒に読む。
4 5	精査・解釈 考えの形成 共有	・「ちいちゃんのかげおくり」を読み、ずきんと心に響く叙述をみつけ、その理由を書く。 ・自分がずきんと心に響いたことを紹介し合う。	【知識・技能、読む能力】 ・「ずきんカード」(記述)	二つの場面をとりあげて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	かげおくりを楽しむ仲の良い家族だったのに、ここでは、くうしゅうでお母さんたちと離れ離れになり、お母さんが見つかったと喜んでいただけ、近づいてみるとお母さんではなく、ちいちゃんはとてもがっかりして心細くなり、寂しくてたまらなかつただろうなと思ったから。	三つ以上の場面をとりあげ、自分の生活と比較した文言を入れて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	かげおくりを楽しむ仲の良い家族だったのに、ここでは、くうしゅうでお母さんたちと離れ離れになり、お母さんが見つかったと喜んでいただけ、近づいてみるとお母さんではなく、まだ幼いちいちゃんは不安と寂しさでいっぱいだっただろうなと思ったから。私は、3年生だけど、もし自分がちいちゃんだったら、泣き叫んでしまうくらいつらいだろうなと思ったから。	一場面だけ取り上げて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	他の場面と比べてみるよう助言する。
6 7 8	精査・解釈	・「ずきんカード」をつくるため自分の選んだ本を読み、想像した情景を色で表す。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート (決めた色とその理由) (ふり返り)	イメージカラーの理由について、二つの場面を結びつけて述べている。	(それぞれ選んだ本の) (叙述)の色だから、()色。	イメージカラーの理由について、三つ以上の場面を結びつけて述べている。	(それぞれ選んだ本の) (叙述)の色で(自分の思い)だから、()色。	自分が好きなイメージカラーを決めている。	叙述をもとにするよう、思いを聞き取りながら、一緒に読む。
	考えの形成	・自分が選んだ本を読み、ずきんと心に響く叙述をみつけ、その理由を書く。	【知識・技能、読む能力】 ・「ずきんカード」(記述)	二つの場面をとりあげて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	省略	三つ以上の場面をとりあげ、自分の生活と比較した文言を入れて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	省略	一場面だけ取り上げて、心が「ずきん」と響いた理由を書いている。	他の場面と比べてみるよう助言する。
	共有	・自分がずきんと心に響いた叙述を紹介し合う。	【知識・技能、読む能力】 ・ふり返り	自分がずきんと心に響いた叙述を、友だちと同じか違うかを考えながら、紹介し合っている。	私は、ちいちゃんがひとりぼっちになったところを友だちに紹介したら、○○さんも一緒だった。	「ずきんカード」を見せながら、心に響いた叙述を紹介し合い、考えを広げている。	私は、ちいちゃんが死んでしまったところを選んだが、○○さんはちいちゃんがお母さんとはぐれて一人ぼっちになってしまったところを選んでいて、私も戦争中一人ぼっちになったら本当に恐ろしいだろうなあと考えた。	自分がずきんと心に響いた叙述を、紹介している。	自分の考えと友だちの考えが同じか違うのかをメモさせる。

読むこと		小学校 第【4】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力 判断力 表現力】	ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。 ウ 目的を認識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。 オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。						
	【知識・技能】	(1) カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。 (2) ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。 (3) オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。						
言語活動	・記録や報告などの文章を読み、分かったことや感動したことなどを述べる活動							
単元名	・クイズのとびらで生き物の不思議をおうちに人に紹介しよう							
教材	・「花を見つける手がかり」 ・「科学のアルバムシリーズ」他							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの視点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準				主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)		
・文章を段落相互の関係を捉えながら読み、目的を認識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	・生き物に関する本や文章を様々な読み、驚きや感動、感想などを伝え合う。	1 知識・技能 (伝・田)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
		・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 (1) カ ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (2) ア ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (3) オ	・段落相互の関係に着目しながら、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 ・生き物の不思議についてクイズを作るために、教科書や図鑑の文章から中心となる語や文を見つけて要約している。 ・文章を読んで理解したことに基いて、クイズやその答えを作るために感想や考えをもつている。 (ア) (イ) (オ)		・生き物の不思議や驚きをクイズにして伝えるために、進んで本を読み必要な情報を得たり、活用しようとしていたりしている。			
必要な読むこと的能力								
時間	学習過程	学習活動	評価事例				努力を要する(C)	
		評価資料	おおむね満足(B)		十分満足(A)		判断基準	
		【主体的な学習態度】	判断基準		Aと評価する例		判断基準	
			Bと評価する例		Aと評価する例		支援の手立て	
1	見直し	・学習の目的や内容などの見直しを立てる。	【主体的な学習態度】 家庭学習として、実験にはピンクの付箋、実験結果には青い付箋を貼りながら読んでみるようにする。					
2	構造と内容の把握	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、「花を見つける手がかり」を読み、クイズ・答えになる場所を見つける。	・クイズと答えになる得る叙述を捉えている。付箋の色分けや記述が6割以上妥当。	・「もんしろちょうは何を手がかりにして花を見つけるのでしょうか。」「花の色で実験や実験結果についての付箋の色分けや記述が6割以上妥当。	・クイズと答えについて、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に捉えている。 ・クイズの色分けや記述が8割以上妥当。	・「もんしろちょうは何を手がかりにして花を見つけるのでしょうか。」「花の色で実験や実験結果についての付箋の色分けや記述が8割以上妥当。	・付箋の色分けや記述の妥当性が半分以上である。 ・文末表現や実験に関わる言葉の置き換えなどを手がかりに、捉えることができるようになる。	
3	構造と内容の把握	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、クイズの答えの解説になりそうな叙述を貼っている。(付箋、振り返り)	・クイズの答えの解説について、筆者の考えと繰り返しの実験などの関係に着目しながら叙述をもとにとらえている。6割以上は妥当な叙述に付箋を貼られている。	・黄色の色紙に～ ・色紙を花だと～	・クイズの答えの解説について、筆者の考えとそれぞれの実験の意図や違いなど相互の関係に着目しながら叙述をもとにとらえている。8割程度妥当な叙述に付箋を貼られている。	・黄色の色紙に～ ・色紙を花だと～ ・色か、においか、～	・付箋の妥当性が半分以上である。 ・なぜそこに付箋を貼ったかの理由を友だちと交流することにより、捉えられるようになる。	
4	精査・解釈	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、前時の付箋や書き込みをした全文シートをもとに、解説に必要なキーワードを見つける。(ピ付箋)	・クイズの答えの解説に必要な語や文を見付けている。(付箋、全文シート、振り返り)	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を見付けている。妥当性が6割程度。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を見付けている。妥当性が8割程度。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を見付けている。妥当性が8割程度。	・妥当性が半分以上である。 ・前時の付箋やクイズの答え、問題文を手がかりに言葉を広げられるようになる。	
5	精査・解釈	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、前時の付箋や書き込みをした全文シートをもとに、解説の要点をまとめてきたものを友だちと見合い、修正する。	・クイズの答えの解説を要約している。(クイズの扉、振り返り)	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを6割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	
6	考えの形成	・不思議クイズの解説を調べる中で、思ったことや考えたことをまとめる。	・文章を読んで、感想や考えをまとめている。(クイズの扉、振り返り)	・生き物の不思議について理解したことに基いて、感想や考えをまとめている。	・もんしろちょうが花の色を手がかりにしてみつけていることにおどろいた。今度もんしろちょうを見かけたときはよく見てみたい。	・生き物の不思議について理解したことを経験などを複数事例を関連づけながら、感想や考えをまとめている。	・生き物の不思議について理解したこと以外を感想としてまとめている。 ・友だちの驚きや感動を聞いて、参考にさせたりしながら伝えられるようになる。	
7	構造と内容の把握	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、自分が選んだ本で、クイズ・答えになる場所を見つける。	・クイズと答えになる得る叙述を捉えている。(付箋、振り返り) ※実験や観察、結果や筆者の考えなど付箋の色分け	・クイズと答えについて、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に捉えている。付箋の色分けや記述が6割以上妥当。	・オナモミの実はどういうふうに見えるのか。動物にくっついて運ばれる。付箋の色分けや記述が8割以上妥当。	・クイズと答えについて、段落相互の関係に着目しながら、叙述を基に捉えている。付箋の色分けや記述が8割以上妥当。	・付箋の色分けや記述の妥当性が半分以上である。 ・文末表現や実験に関わる言葉の置き換えなどを手がかりに、捉えることができるようになる。	
8	構造と内容の把握	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、クイズの答えの解説になりそうな叙述(黄付箋)をみつける。	・クイズの答えの解説になりそうな叙述を捉えている。(付箋、振り返り)	・クイズの答えの解説について、筆者の考えと繰り返しの実験や観察などの関係に着目しながら叙述をもとにとらえている。6割程度妥当な叙述に付箋を貼られている。	・オナモミの実には鋭いとげがたくさん付いていて手で触るとちくちくします。オナモミの実には動物の毛にもくっつきます。とげをよく見ると先がかぎ針のように曲がっています。ここが服の糸や動物の毛に引っかかるのです。とげが一本だとすぐに落ちますが、たくさんとげがたかさんの糸や毛とからまるのでオナモミの実は簡単に落ちません。イノシシの親子はオナモミの実をくっつけたまま歩いて行きます。すると絡まり合っていたとげと毛がだんだんほどけていきやがて実はどこかで地面に落ちます。イノシシは自分でも知らないうちにオナモミの実を遠くまで運んでいたのです。	・クイズの答えの解説について、筆者の考えとそれぞれの実験や観察の意図や違いなど相互の関係に着目しながら叙述をもとにとらえている。8割程度妥当な叙述に付箋を貼られている。	・付箋の色分けや記述の妥当性が半分以上である。 ・なぜそこに付箋を貼ったかの理由を友だちと交流することにより、捉えられるようになる。	
9	精査・解釈	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、前時にみつけた解説になりそうな叙述をもとに、絶対に外せないキーワードを見つける。(ピ付箋)	・クイズの答えの解説に必要な語や文を見付けている。(付箋、全文シート、振り返り)	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を見付けている。妥当性が6割程度。	・オナモミの実 ・鋭いとげがたくさん ・服の糸 ・動物の毛にくっつく ・とげの先がかぎ針のように曲がっている ・たくさんとげがたくさん糸や毛とからまるオナモミの実をくっつけたまま歩く ・実はどこかで地面に落ちる	・クイズの答えの解説について、答えの選択肢と複数の実験結果に着目しながら、中心となる語や文を見付けている。妥当性が8割程度。	・妥当性が半分以上である。 ・クイズの内容を丁寧に読んでその答えにあたる言葉を探すよう促す。	
10	精査・解釈	・生き物の不思議をクイズで知らせるために、前時の付箋や書き込みをした全文シートをもとに、答えの解説をまとめてきたものを友だちと見合い、修正する。	・クイズの答えの解説を要約している。(クイズの扉、振り返り)	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを6割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	・クイズの答えの解説について、中心となる語や文を要約して、キーワードを8割程度使用し、主述の関係がはっきりしている。決められた字数内でまとめている。	
11	考えの形成	・不思議クイズの解説を調べる中で、思ったことや考えたことをまとめる。	・文章を読んで感想や考えをまとめている。(クイズの扉、振り返り)	・文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをまとめている。	・最初オナモミの秘密を知ったときびっくりしました。オナモミの実にすごい工夫があり、それで新たなオナモミの実が誕生するのがすごいなと思いました。オナモミの実を見つけたらいろんなところに運んであげたいです。	・文章を読んで理解したことや経験などを関連づけながら、感想や考えをまとめている。	・文章を読んで理解したことや経験などを関連づけながら、感想や考えをまとめている。 ・オナモミは動物に運んでもらうたにかぎ針みたいなとげをしていただけでなく、動物たちに食べられないようにたくさんのかぎ針みたいな針を付けているのかもしれない。オナモミを見つけたら近くに動物がいなか探してみたいです。	・友だちの驚きや感動を聞いて、参考にさせたりしながら伝えられるようになる。

読むこと		小学校 第【4】学年							
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 							
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉え、語彙を豊かにすること。 							
言語活動	・物語を読んで、内容を説明したり、考えたりしたことを伝え合ったりする活動								
単元名	・読書新聞でお気に入りの物語を説明しよう								
教材	・「ごんぎつね」(光村図書4下) ・きつねが主人公として登場する物語文								
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準				3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
・場面の移り変わりと結び付けて、登場人物の気持ちの変化や性格を想像すること。	・物語の好きなところを紹介するために、「こんなストーリーです」「お気に入りの場面」「登場人物のここに共感」などの観点に沿って読み、考えたことや感じたことを叙述を根拠にまとめる。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句に気を付けている。 ・語彙を増やしている。 (1) オ	・物語を読んで、山場を中心に場面の移り変わりに着目しながら、登場人物の気持ちの変化や性格を想像している。 (エ) ・同じ文章を読んでも、読む人によって感じ方や考え方に違いがあることに気付いている。 (オ) (カ)		・文章を読んで、感じたことや考えたことを他者と伝え合おうとしている。 ・関連図書をさらに読もうとしている。				
必要な読むこと的能力		・目的に応じて、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。							
時間	学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 (場面・方法)	評価事例					
				おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
		判断基準	Bと評価する例		判断基準	Aと評価する例		判断基準	支援の手立て
第一次 ②	学習の見直し	○教師自作の読書新聞のモデルの紹介を聞き、自分のお気に入りの物語を読書新聞で紹介しようという単元の学習目標を持ち、学習計画を立てる。(きつねが主人公である物語を集めて、並行読書していく。)	【主体的な学習態度】	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルから、物語を読むことや読書新聞を作って説明することに関心を持ち学習計画を立てようとしている。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ■教材文「ごんぎつね」を読み、読書新聞を作る。 ○読書新聞で説明したいことを確かめながら、「ごんぎつね」を読み、場面の様子や登場人物など内容の大体を捉える。 ・あらすじ<『こんなストーリーです』> 	ノート記述 付箋を使った説明	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や、場面の展開など付箋を使ってキーワードを捉え、大まかにあらすじを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ごんはたいくつだったので、兵十のウナギにいたずらをした(1)。その後兵十の家の葬式を見て、母親が死んだことを知り、自分のいたずらのせいだと後悔した(2)。独りぼっちな兵十に、イワシをあげるが、そのことで兵十に迷惑をかけてしまう。さらにつぐないを続けるごん(3)。ある夜、兵十と加助の会話を聞いていたごんは、「つぐないは神様のしわざだ」という話を聞いて、「おれは引き合わないなあ」と思った(45)。でもそのあくる日にくりを持っていく。そして、兵十から火縄銃で撃たれてしまう(6) 	登場人物や、場面の展開など付箋を使ってキーワードを捉え、話の筋が通るようにあらすじを説明している。 ※チョイスが適切	<ul style="list-style-type: none"> 独りぼっちな子ぎつねごんは、兵十のウナギにいたずらをしたことが(1)、母親の死につながったと後悔した(2)。独りぼっちな兵十につぐないを始めるごん(3) ごんのつぐないは神様のしわざだという加助と兵十の会話を聞き、「引き合わないなあ」と思うごん(45)であったが、それでも次の日くりを持っていく。そして、兵十から火縄銃で撃たれてしまう。兵十は初めて、くりやらを持ってきてくれていたのはごんだったと気づいたのだ(6)。 	あらすじの記述が長すぎる。または場面ごとの付箋をつながらずに書いている。	文章中から言葉を一緒に読みながら捉えさせるようにする。
第二次 ④	精査・解釈・考えの形成・共有	○読書新聞で説明したいことを確かめながら、「ごんぎつね」を読み、おすすめの場面とその理由をはっきりさせる。 ・おすすめの場面(場面が大きく変わる瞬間)<『ここがおすすめ・場面紹介』>	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート(おすすめの場面の理由の記述)	「おすすめの場面」とその理由について、前場面や後場面からのつながりを意識して書かれている。	(第5場面を選んだ理由) 兵十と加助の後をつけてずっと待っていたのに、ごんの話はしないで、くりやまつたけを届けてくれたのは神様だと兵十が信じてしまったことがわかり、ごんはとてもがっかりした。その気持ちがよくわかるからです。	「おすすめの場面」とその理由について、兵十の母親の死(第2場面)、いわしやにひどい目に合わされた兵十(第3場面)、くりやまつたけを届けたのは神様だと信じた兵十(第4場面)と、複数の出来事につながりを意識して書かれている。	(第5場面を選んだ理由) ・自分のせいで、兵十のおつかあにうなぎを食べさせてあげられなかったばかりか、兵十はいわしやにひどい目に合わされたので、ごんは、つぐないにまつたけやくりを届けていた。それなのに、兵十は神様が届けていると信じてしまい、ごんがどれほどがっかりしたか、その気持ちの落ち込みようがとてもよく想像できる場面だからです。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おすすめの場面」とその理由について、自分の選んだ場面からのみ書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごんの「おれは引き合わないなあ」という言葉は、どのような出来事から生まれたものかなど、前の場面を読み直すよう促す。
		○読書新聞で説明したいことを確かめながら、「ごんぎつね」を読み、登場人物の性格や気持ちの移り変わりを紹介する。 ・主な登場人物の性格・気持ちの変化 <『ここがおすすめ・主人公紹介』>	ワークシート (ごんの性格や気持ち) (その理由)	ごんの性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けながら、想像したことを理由にまとめている。(2つ以上の叙述から根拠を持ってくる)	「ごんは、さみしがりやで誰かと仲良くなりました。誰かと遊びたくなるから、いたずばかりするのだと思います。兵十に「次の日も、その次の日も」くりを持っていくのは、本当は仲良くなりたいからだと思います。	ごんの性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けながら、想像したことを理由にまとめている。(3つ以上の叙述から根拠を持ってくる)	「ごんは、さみしがりやで人なつっこいきつねです。」いたずらばかりしていたのは、ほら穴でひとりぼっちでいると誰かと遊びたくなるからでしょう。最初はいわしを投げ込んだけど、次には物置の入り口そつと置くと、かげをふみふみうちのうらら口とどんだごんの兵十に対する距離が縮まっていったので、人なつっこいんだと思いました。	ごんの性格や気持ちの変化について、理由にまとめているが、1場面のみが根拠になっている。	複数の場面や叙述から、理由が書けるようにながす。
		○読書新聞で説明したいことを確かめながら、「ごんぎつね」を読み、好きな一文とその理由をはっきりさせる。 ・情景描写 <『ここがおすすめ・様子がわかる表現』>	ワークシート (好きな一文) (その理由)	「ごんぎつね」の好きな一文を中心に、登場人物の言動や場面の移り変わりと結び付けながら、想像したことを理由にまとめている。(2つ以上の叙述から根拠を持ってくる)	「青いけむりが、まだつづ口から細く出ていました。」衝撃のラストシーンです。「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」という言葉から、兵十のくりを持ってきたのがごんであるということにやっとなつと気づき、火縄銃をばたりと落とした後悔の気持ちが青いけむりに表現されていると思っただけです。	「ごんぎつね」の好きな一文を中心に、登場人物の場面の移り変わりと結び付けながら、想像したことを理由にまとめている。(3つ以上の叙述から根拠を持ってくる)	「青いけむりが、まだつづ口から細く出ていました。」衝撃のラストシーンです。「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」という言葉から、兵十がごんのつぐないにやっとなつと気づき、同時に火縄銃をばたりと落とした後悔の気持ちが青いけむりに表現されていると思っただけです。一方でごんは、ぐつたりと目をつぶったまま、うなずきました。というごんの「やっとなつとわかってもらえた」という喜びもこの青いけむりに表れていると思います。	理由について、叙述をもとに書けていない。	選んだ一文だけでなく、他の場面や他の叙述と結びつくところがないかを読み返すようにながす。
○記事を台紙に貼り付け読書新聞を作る。 ・読書新聞を読み合い、感じたことや考えたことを伝えあう。	交流時の観察(発言) ふりかえりの記述	新聞に取り上げた内容やその解釈について、自分と友だちの考えの違いに気付いている。	おすすめの一文は、○さんと一緒だったけど、その理由は全然違っていたのでびっくりした。	新聞に取り上げた内容やその解釈について、自分と友だちの考えの違いに気付く、そこから新たに考えたことを表現している。	おすすめの一文は、○さんと一緒だったけど、その理由は私とちがっていた。「青いけむり」が兵十だけでなく、ごんの気持ちを表しているというのは、なるほどと感じた。	友だちと自分の考えの共通点と相違点が明確でない記述	「同じ」か「似ている」か「ちがう」かふりかえりの記述を意識するよう促す。		
第三次 ⑤	学習の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ■きつねが登場する本の読書新聞を作る。 ○自分の好きな物語を選び、新聞の割付を考える。 ○物語を繰り返し読みながら、新聞記事を書く。 ○読書新聞を読み合い、感想を述べ合う。 	省略						

読むこと		小学校 第【5】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること。 オ 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること。 						
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 (3) オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。 						
言語活動	課題解決のために意見を述べた文章や解説の文章などを利用して、考えたことを文章にまとめる活動							
単元名	読んで集めてまとめよう 「わたしたちのメディアとの関わり方」							
教材	「想像力のスイッチを入れよう」(光村図書5年) ・他 メディアに関する複数の本							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力) : 単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)	3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
		<ul style="list-style-type: none"> 文章や文にはいろいろな構成があることに気付いている。(1)カ 読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決や自分の考えの形成のために、多様な読み方を活用して本や文章を読んでいる。(エ) 本や文章を読んで得た情報から自分の考えをまとめ、交流し、自分と友だちとの考え方の共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げている。(オ) 	<ul style="list-style-type: none"> メディアとの関わり方について提案するために、複数の本や文章を主体的に読み、読書や交流を通して自分の考えを深めようとしている。 				
必要な読むこと的能力 (中心となる既習事項)		<ul style="list-style-type: none"> 文章に説得力を持たせる資料を選ぶために効果的に情報収集ができるように「摘読」「速読」「精読」などを理解すること。 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成をとらえ要旨を把握すること。 						
学習時間	学習活動	評価資料 【観点】	評価事例					
			おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
			判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の情報の受け取り方を振り返って、メディアとの関わり方に興味を持つ。「メディアとの上手な付き合い方」を考えるための学習計画を立てる。(テレビ・新聞・インターネット・ラジオ) 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりの記述 	<ul style="list-style-type: none"> メディアとの関わり方に興味を持って考えようとしている。前時までの学習やこれまでの学習経験を生かして目的に応じた学習計画を立てようとして話している。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビは面白いけど、時々言葉使いが気になる時がある。テレビを観るときにどんなことに気をつけたいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の情報の受け取り方を振り返り、メディアとの関わり方に興味を持って考えようとしている。前時までの学習経験を生かして目的に応じた学習計画を立てようとして話している。 	<ul style="list-style-type: none"> メディアとの関わり方について提案するために、複数の本や文章を主体的に読み、読書や交流を通して自分の考えを深めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの自分の生活の中でどの様なメディアがあったか、メディアそのものを思い付くままに並べている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの自分の生活の中でメディアとの関わり方について振り返らせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 「想像力のスイッチを入れよう」を読み、筆者のメディアについての考えやその根拠となる事例をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のメディアとの関わり方に対する考えをとらえ、事例と筆者の主張をとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主張は「情報を受け取る時は努力が必要だ。そのために4つのスイッチがある。」事例は3つある。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のメディアとの関わり方に対する考えとそれを支える根拠を整理してとらえている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を受け取る時は努力が必要だ。(事例1、2) そのために4つのスイッチがある。(事例3) 自分の想像力で壁を破り、大きなものを眺めて判断しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の考えが述べられている段落はどこか見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「想像力のスイッチ」「メディア」「情報を受け取る側」「4つのスイッチ」と言うキーワードを使って、要旨をとらえるよう助言する。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 「想像力のスイッチを入れよう」を読み、筆者の考えから感じたことや感想を交流し、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録 交流のふり返り 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のメディアとの関わり方に対する考えに対して、自分のこれまでの関わり方を振り返ったうえでメディアとの関わりについて、事実かそうでないかなんて考えたことはなかった。すぐに信じてしまっていたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が「事実かな。印象かな」というところになるほどだと思った。自分はこれまで、一つ一つの言葉について、事実かそうでないかなんて考えたことはなかった。すぐに信じてしまっていたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のメディアとの関わり方に対する考えに対して、自分のこれまでの関わり方を振り返ったうえで、メディアとの関わりについて、改善点も加えて自分の考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者がいう「想像力のスイッチ」と言う言葉はわかりやすい。テレビや新聞のニュースは絶対正しいと思っていたけど、新聞の比べ読みをした時のように、同じ事実でも見方が変わると伝え方が違った。「他の見方もないかな」の視点は大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のメディアとの関わり方に対する考えを受容している。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の言う「4つのスイッチ」のどれが一番共感するか、その理由はなぜかを自分の考えを示すよう助言する。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> 「今の自分たちに必要なメディアとの関わり方」は何か考えを広げるために、本や文章を選んで読み、情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報カード(今現在の自分の考えとその理由を書いたもの)事例メモ 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の文章を読み、自分の意見を構築するために必要な文章を選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「テレビでバラエティー番組を観る時は、言葉の使い方をそのまま真似しない」という考えを支えるために、「①バラエティー番組の強みと弱み」「②実際に起きた影響」の2つを事例として取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の文章を読み、自分の意見を構築するために自分の経験と関連付けながら必要な文章を選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「インターネットを使う時は、3つ以上のサイトを確認する。」という考えを支えるために、総合的な学習の時間にインターネットを活用したときの経験を踏まえ、「①フェイクニュースを信じたデータ」「②若者の実験結果」「③フェイクニュースで起きた影響」の3つを事例として取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ本を最初から通して全文を読もうとしていて、必要な情報にたどり着くまでに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の考えにつながるような情報を一覧表にまとめておく。その内容と本の目次や索引を結びつけて、必要なページにたどり着けるように支援する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えとその根拠になる事例を交流しあい、どの事例がより説得力を持たせるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 交流の様子 ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを支える事例について、その効果を説明したり、友達の見解を聞いて、②の事例はもっと短くわかりやすく整理したい。(2つ以上の事例から) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに説得力を持たせるためには、①と②の事例を取り上げたい。友だちの見解を聞いて、②の事例はもっと短くわかりやすく整理したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを支える事例について、その効果を説明したり、友達の見解を聞いて、より説得力を持たせる事例を判断している。(3つ以上の事例から) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに説得力を持たせるためには、①と②の事例を取り上げた。①は数字が多くわかりにくいので、表にして整理したい。他者に自分の考えを説明する場合、文章だけでなく表や図なども考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の一つを取り上げて、あるいは、事例のないまま自分の考えを述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主張(考え)と事例の関係を整理したヒントカードを提示する。

読むこと		小学校 第【5】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること エ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 						
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) オ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語彙を豊かにすること。 						
言語活動	・物語を読んで、内容を説明したり、自分の考えや感想を伝え合ったりする活動。							
単元名	・「本の帯をつくって、お気に入りの棕鳩十作品を中学生におすすみましょう」							
教材	・「大造じいさんとガン」(光村図書) ・その他 棕鳩十作品							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分が選んだ棕鳩十作品を『本の帯』にして中学生に推薦する」ために、登場人物の心情を表す表現や相互関係について、優れた叙述を手がかりにしたり、友だちとの読みの交流を参考にしたりするなどして、自分の考えを明確にしながらかく。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の語感や言葉の使い方に対する感覚に関心をもって、物語を読んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> 帯で作品を推薦するために、登場人物の相互関係や物語の全体像、表現の効果などについて、描写を基に捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 (イ) (エ) 帯で作品を推薦するために、自分のお気に入りの文やその理由を伝え合うことで、友だちと自分との共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを深めている。 (カ) 		<ul style="list-style-type: none"> おすすめの本の帯を作るために、棕鳩十作品を進んで読もうとしている。 	
必要な読むこと的能力		<ul style="list-style-type: none"> 目的や必要に応じて文章の細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり、要約したりすること。 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくこと。 						
時間	学習活動	評価資料 【観点】 ・(場面・方法)	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
			判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
第一次 1	・棕鳩十の作品を読み、中学生に本を推薦するための帯を作るという学習計画を立てる。	・発言、ふりかえり	・教師モデルから本の帯に何を書けば、その本が手に取ってもらえるのかを考え、「本推薦をする」ために必要な学習を考えようとしている。	・本の帯は作ったことがないけど、計画した手順をふってやられてしまう。3年目の大造じいさんの本の帯を作ってみよう。	・教師モデルや本物の帯を参考に「本を推薦をする」ために必要な学習を考えようとしている。	・実物の本の帯には、本を手に取ってもらえるためのいろいろな仕組みがあるんだな。本の帯には、本をしっかりと読んでその魅力を伝えたいとけいな。	・「本の帯」を作ることに、不安を抱いている。	・教師モデルの進め方を確認する。
第二次 2	・大造じいさんと残雪の関係を中心に本の帯にふさわしいあらすじをまとめる。	・ノート記述「本の帯にのせるあらすじ」 ふりかえりの記述	・大造じいさんと残雪の関係とその関係性の変化を感じる場面に触れて、あらすじを短くまとめている。	・大造じいさんは、がんと仕留めようと様々な作戦を試みるが、頭領の残雪にしてやられてしまう。3年目の大造じいさんはおきの作戦に取りかかっている。	・大造じいさんと残雪の関係性の変化に気づき、さらにどう発展していくのか期待させるようなあらすじに短くまとめている。	・大造じいさんは、がんと仕留めようとするが、いつも頭領の残雪にやられてしまい、いままでうまく思っていた。満を持して3年目の戦いに臨んだ大造じいさんの前で残雪が起きた行動とは……。そして大造じいさんは残雪をやっつけることができるのか……。	・「本の帯」を意識せずにあらすじを書いている。	・大造じいさんと残雪の関係が変わるところはどこかを考えさせ、その前を少ない字でまとめるよう声かけする。
	・大造じいさんと残雪のやりとりに着目し、人物関係図を考える。	・ワークシート(関係図)	・両者の関係を、場面ごとにキーワードを使ってわかりやすく整理している。	・(望ましいキーワード) 1 いま、たかが鳥。「ううむ。」感嘆の声。「大した知恵を持っている。2 会心の笑み。一発うちこんで。してやられた。「うん。」うなづいた。3、うまくいくぞ。わくわく。強く心を打たれてただの鳥に対しての気がしなかった。4 晴れ晴れと。堂々と戦おう。	・場面の変化や登場人物の心情の動きに着目して、両者の関係を、物語の前半と後半に分けて、記号やキーワードを使って、わかりやすく整理している。	・(望ましいキーワード) 前半と後半で使い分け。1 いま、たかが鳥。「ううむ。」感嘆の声。「大した知恵を持っている。2 会心の笑み。一発うちこんで。してやられた。「うん。」うなづいた。3、うまくいくぞ。わくわく。強く心を打たれてただの鳥に対しての気がしなかった。4 晴れ晴れと。堂々と戦おう。	・登場人物の関係を図で表す際に、記号だけを使って表している。	・記号の意味や、キーワードの書き込み例を示す。
	①行動描写、②心情描写、③情景描写から大造じいさんの心情の変化を整理する。	教科書(ラインと記号) 教科書への書き込み	大造じいさんの心情を①行動描写、②心情描写、③情景描写に分けてラインを引いている。また、その時の心情を書き込んでいる。	(情景描写引用) というところには、大造じいさんの「今日こそはとめてやるぞ」という心情が表れている。	大造じいさんの心情を①行動描写、②心情描写、③情景描写に分けてラインを引いている。また、その時の心情と自分自身の感想や考えを書き込んでいる。	(情景描写引用) というところには、大造じいさんの「今日こそはとめてやるぞ」という心情が表れている。これまでの残雪との攻防にけりをつけようという大造じいさんの意気込みが伝わってくる表現でとても好きどころだ。	・①行動描写、②心情描写、③情景描写の区別がなく、大造じいさんの心情が表れている叙述に線は引いている	・行動描写、心情描写、情景描写の違いが分かる例を示す。
	・情景描写から本の帯に載せたいお気に入りの文を選び、その理由をまとめる。交流を通して、自分のお気に入りの理由について、さらに考えを深める。	・ノート(選んだ文とその理由)付箋 ふりかえり・感想交流時の発言	・情景描写の中から、本の帯に載せたいお気に入りの文を選び、なぜそれを選んだか、叙述をもとに理由をまとめている。	・「あかつきの光が～」を選んだ。理由は、大造じいさんの「いよいよ「戦闘開始だ」という気持ちがこの情景に結びついていると思ったから。	・情景描写の中から、本の帯に載せたいお気に入りの文を選び、なぜそれを選んだか、特にその叙述の言葉や助詞など細かい部分にも目を向けて理由をまとめている。	・「東の空が真っ赤に燃えて」を選んだ。三回目の勝負の朝。「燃えて」は残雪との戦いに心を燃やす大造じいさんの心情が表れている。「真っ赤に」は赤よりもっと濃い色が気持ちの強さを表している。	・情景描写の中から、本の帯に載せたいお気に入りの文を選んでいる理由が明確ではない。	・誰のどんな意見が参考になったかのヒントカードをもとに、選んだ理由が書けるよう促す。
第三次 7 8	・おすすめの棕鳩十作品の本の帯をつくって、全体で交流しよう。	・ノート ワークシート ふりかえり	・帯に取り上げるために、直接的な心情描写や行動描写だけでなく、情景描写など暗示的な表現にも着目してお気に入りの文とその理由を選んでいる。	・「片耳の大鹿」の〇〇の情景描写は、獅師の吉助の〇〇と言う気持ちを表している。	・棕鳩十作品の特徴に気づいたり、象徴性や暗示性の高い表現などに目を向けている。	・「片耳の大鹿」は、「大造じいさんとガン」とテーマが似ている。動物と人間を超えたライバルという人物関係が似ていると思う。棕さんは、動物を尊敬のまなざしで書いていることが多い。	・これまでの活動をふり振り返り、自分がおすすめの本を帯にしたい理由を書こうとしている。	・「あらすじ」「関係図」「お気に入りの一文」などこれまでの学習を想起させる。

読むこと		小学校 第【6】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	・ウより 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。 オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。						
	【知識・技能】	・(1) オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。						
言語活動	・複数の本や文章を活用して、調べたり考えたりしたことを基に解説する活動。							
単元名	・絵画コメンテーターになって、ミニ「鳥獣戯画展」をひらこう。							
教材	『鳥獣戯画』を読む(光村図書6)							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
・要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。	・コメンテーターになって、『鳥獣戯画』について解説するために、他の解説文や様々な関連資料などを利用する。	・文章表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 (1) オ	・『鳥獣戯画』のコメントをするために、必要な内容を押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んでいる。 (ウ) (オ)		・『鳥獣戯画』の中から自分の選んだ場面のコメントをするために、『鳥獣戯画』についての解説文等を進んで読もうとしている。			
必要な読むことの能力		・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。						
学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 (場面・方法)	評価事例					
			おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
			判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
第一次 見通し	・学習の課題をつかんで、単元の見通しを持つ。 ・学習計画を立てる。	【主体的な学習態度】 ・ノート、ふり返り	学習への見通しをもち、ミニ『鳥獣戯画』展に向けて、学習計画を立てている。					
	・自分のコメントに役立てるために、高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを書きます。	【知識・技能、読む能力】 ・高畑氏がとりあげた見所やすばらしさを付箋に書き抜く。(付箋)	・高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを捉えて、付箋に書いている。	・高畑氏がとりあげた見所やすばらしさの8割以上を付箋に書き出している。	・高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさをすべて捉えて、付箋に書いている。	・高畑氏がとりあげた見所やすばらしさの全てを付箋に書き出している。	・高畑氏がとりあげた見所やすばらしさを付箋に数枚書いている。	・例を示し、絵と結びつけながら、『鳥獣戯画』のすばらしさが他にもないか探すよう促す。
第二次 精査・解釈	・自分のコメントに役立てるために、高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを分類・整理する。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート	・高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを捉えて、付箋に書いている。	・付箋を並び替え、分類・整理している。	・高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを分類整理し、視点を明確にしている。	○線 ○色 ○筆遣い ○ストーリー ○動き ○表情 など	・高畑氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさについて、「線」「色」については分類している。	・例を示し、似たものをみつけさせる。
第二次 精査・解釈	・コメントに役立てるために、稲次氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート・付箋	・稲次氏の見方に対する自分の考えをまとめるために、稲次氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさを捉えて読んでいる。	・稲次氏がとりあげた見所やすばらしさの8割以上を付箋に書き出している。	・稲次氏の見方に対する自分の考えをまとめるために、稲次氏がとりあげた『鳥獣戯画』の見所やすばらしさをすべて捉えて読んでいる。	・稲次氏がとりあげた見所やすばらしさの全てを付箋に書き出している。	・稲次氏がとりあげた見所やすばらしさを付箋に数枚書いている。	・高畑氏がとりあげた見所やすばらしさを思い出させたり、『鳥獣戯画』のすばらしさが他にもないか探すよう促したりする。
第三次 考えの形成	・高畑氏と稲次氏の解説を読んで、自分のコメントに取り入れるものを選ぶ。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート	・両氏の見方に対して、賛同か、つけ加えか、ちがう見方かなど自分の考えをまとめ、自分のコメントに取り入れるものを選んでいる。	表情 (自分の考え) 私も、三匹の応援蛙のポーズと表情がすばらしいと思った。	・両氏の見方に対して、賛同か、つけ加えか、ちがう見方かなどを複数の叙述をもとにして、自分の考えをまとめ、自分のコメントに取り入れるものを選んでいる。	表情 (自分の考え) 私も、三匹の応援蛙のポーズと表情や、耳をかじられている兎の表情がすばらしいと思った。さらに私は「キャハハハハ。すごいぞー」という声がかこえてきそうだと思った。	・自分のコメントに取り入れるものを絵のみで選んでいる。	・なるほどと思った高畑氏の見方が他にもないか教科書を読んで探すよう促す。
第三次 考えの形成	・高畑氏と稲次氏の解説を読み比べて利用しながら、教科書の絵に対する自分のコメントをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート	・高畑氏と稲次氏の見方をまとめた表を利用しながら、教科書の絵に対するコメントをまとめている。	・視点を3つ入れて、コメントをまとめている。	・高畑氏と稲次氏の見方をまとめた表を利用しながら、教科書の絵に対するコメントを複数の叙述に関連付けてまとめている。	・視点を4つ以上入れて、コメントをまとめている。	・解説文に関係なく、自分の見方だけで、コメントをまとめている。	・高畑氏と稲次氏の見方をまとめた表を見せながら、3つの視点を選ばせ、コメントをまとめさせる。
第三次 考えの形成	・解説文などを利用し、自分の担当する絵のコメントをまとめる。 ・ふりかえりをする。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート	・自分の担当する絵について、複数の解説文などを利用して、自分のコメントをまとめている。	・視点を3つ入れて、コメントをまとめている。	・自分の担当する絵について、複数の解説文などを利用して、自分のコメントを複数の叙述に関連付けてまとめている。	・視点を4つ以上入れて、コメントをまとめている。	・解説文に関係なく、自分の見方だけで、コメントをまとめている。	・視点を確認し、その中から3つ選ばせ、コメントをまとめさせる。

読むこと		小学校 第【6】学年							
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力 判断力 表現力】	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること							
	【知識・技能】	(1) オ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。							
言語活動	物語を読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動								
単元名	物語を読んで、命について考えたことや感じたことを座談会で聴き合おう～立松和平さんの「いのちシリーズ」を通して～								
教材	「海の命」(光村図書) (並行読書: 「山のいのち」「街のいのち」他立松和平のいのちシリーズ)								
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか	何ができるようになるか(資質・能力): 単元の評価規準					3 主体的な学習態度		
必要な読むこと の能力	・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。	1 知識・技能	・ 文、文章から、命を象徴的に表している言葉を意識すること(1) オ ・ 関連する複数の物語を読み、読書が自分の考えを広げること(3) オ				・ 読書座談会で命について語り合うために、複数の関連する物語を読もうとする態度。		
		3 主体的な学習態度							
時間	学習過程	学習活動	評価資料	評価事例		努力を要する(C)			
				判断基準	十分満足(A)	努力を要する(C)			
				判断基準	Aと評価する例	判断基準			
1	学習の見通しを持つ	・「山のいのち」読書座談会のVTRを視聴し、物語を読んで語り合うよさに気づき、学習の見通しを持つ。	・ノートに記述した振り返りの文章	・自分の考えをどの順でまとめたか、振り返りや感想を考えたこと、学習計画を立てようとしている。	・命について考える読書座談会にむけて、どのような視点で読むかに着目しながら、自分の考えを広げること。(カ)	・これまでに行ったことのある登場人物関係図やあらすじをまとめる時に、命について意識してまとめた。教科書の「海の命」だけでなく、立松和平の他の物語を早く読んでみたい。	・計画はうまく立てられていないが、命について考える読書座談会に意欲的に望もうとしている。	・みんなで立てた学習計画のもとに、今後の見通しをもてるように促す。	
2 3	構造と内容の把握	・「海の命」を読んで、命をキーワードに登場人物の関係図を作成する。	・ノートに記述した人物関係図	・命という言葉を意識して登場人物の相互関係を、太一を中心に表している。 ・命を強く意識させるような表現を関係図に書き込んでいる。	・VTRの座談会を見て、命に関する記述に注意して読んでいったらいいんだと感じた。友だちと座談会で語り合い、自分の意見を広げたい。	・命をキーワードに登場人物の相互関係をとらえ、物語の前半と後半に分けるなどして複数の関係図などに表している。 ・命を強く意識させるような表現を取り入れながらあらすじをまとめている。(キーワードの8割以上)	・①海のめぐみ②千匹に一匹でいい③村一番の漁師④海に帰っていった⑤お父、ここにおられたのですか⑥この海の命だなど、象徴性のある言葉やメッセージを意識させる叙述が関係図やあらすじに入っている。	・登場人物の相互関係を関係図に表したり、大体のあらすじをまとめているが、命を感じさせるキーワードが不足している。(5割未満)	・命を感じさせるキーワードの見つけ方を示す。
4 5	精査・解釈	・「海の命」読書座談会でみんなと考えを聴き合うために、登場人物の相互関係や命を意識させる表現を関連付けて「一番心に響いた場面」を決める。	・ノート記述。本文への書き込みや付箋など	・一人の登場人物に焦点をあて、言動や人物相互の関係を捉えて、心に響いた場面を選んでいる。	・私は3場面です。太一が、与吉じいさんの「千びきに一びき〜」を受け継いで「村一番の漁師」と認められた場面だからです。与吉じいさんの教えを守ったからこそ、背の主を殺さなかったし、村一番の漁師であり続けたと思います。	・複数の登場人物に焦点をあて、言動や、人物相互の関係をとらえて、心に響いた場面を選んでいる。	・5場面です。父の「海のめぐみ」、与吉じいさんの「千びきに一びき〜」に学んだ太一が、「母の悲しみさえも」を受け、「この大魚は海の命だ」と思い殺さなかったからです。	・その場面を選んだ理由として、登場人物の言動や、登場人物の相互関係には触れず、出来事だけを取り上げている。	・命を感じさせるキーワードとそれにつながる人物との関係を確かめさせる。
6	考えの形成	・「一番心に響いた場面とその理由」について自分の考えをまとめ、「海の命」読書座談会にむけての準備をする。	・ノート記述	・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、一人の人物に焦点をあてるとともに、「命」について考えさせられた表現を複数取り入れて述べている。	・私は特に2場面から「命」とは大切に使い、大切にしたい、無駄にはほけないもの」と思ったから。与吉じいさんの「千びきに一びき〜」という考え方は、人間のために命を差し出す魚への深い感謝が感じられず、いいと思ったから。	・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、複数の人物に焦点を当てるとともに、「命」について考えさせられた表現を複数取り入れて述べている。	・私は特に5場面から「命とはつながって回っているものだ。」と思ったから。与吉じいさんの「千びきに一びき〜」に学んだ太一は、「この大魚は海の命だ」と思い殺さなかった(5場面)。与吉じいさんの「人間の命の基になってくれる魚の命を大切にしよう」という教えを守り続け、村一番の漁師であり続けたことがわかる最後の場面につながっていく場面だから。	・「取り上げた場面が一番心に響いた理由」について、一つの叙述のみを根拠に理由を書いている。	・選んだ場面とその叙述だけでなく、他の場面や他の叙述と結び付くところがないかを読み返すように促す。
7	共有	・「一番心に響いた場面」について「海の命」読書座談会をおこない、命についての考えを深める。	・座談会後の振り返りの記述	・命についての自分の考えと友だちの考えの共通点や相違点を明らかにしながら、新たに考えたことを述べている。	・〇〇さんの「生と死のくり返し」という言葉や「海で生きたら海に帰る」という言葉は、私の思う「生き物は食べたり食べられたり、どこかでつながっているものだ。」と言うこととつながると思いました。「食べる」ことは「他の命をいただく」ことにつながるとあらためて思った。	・命について友達から発見したことや、「山のいのち」など他の「命シリーズ」の本を読んだことなどを関連付けながら、新たに考えたことを述べている。	・登場人物それぞれの描写から「場面ごとに命が深まるのを感じた」と〇〇さんは述べていた。そのことか最初は気にならなかった。「海のめぐみ」という言葉が、最後は自分の中で「深まる」とつながってキーワードになっていった。海と山の違いはあるが、命は回る、つながる、それは自然のめぐみの中で回りわたしたち人間にも返ってくることを立松さんは伝えたかったのだろう。	・命について文章事実からの自分の考えを述べている。	・自分の考えと友達の考えを比べて、「似ている」ところや、「ちがう」ところを意識するよう促す。
8 9	共有	・「立松和平のいのちシリーズ」読書座談会に取り組み、複数の作品を関連づけながら、「命」についての自分の考えを深める。	・ノート記述。座談会の児童観察(発言)ふり返りのワークシート	・シリーズ作品などと重ねたり、互いの感じたことや考えたことを交流すること、自分の考えをまとめた、新たな意味を見いだしたりしている。	・街の命で「命は成長するにつれ短くなっていくけど、その命がまた新しい命を生む。」と感じ、海の命で感じた「命とは失ってもつながっているもの」とつながっています。〇〇さんや□□さんと共感するところが多かったです。	・シリーズ作品などと重ねたり、これまでの読書経験や生活経験で捉えたことと重ねたりしながら、互いの感じたことや考えたことを交流すること、自分の考えをまとめた、新たな意味を見いだしたりしている。	・立松さんは、命シリーズで色々な表現で命を表現しているが、結局「命は形を変えながらつながっていくもの」を表現している。これは、星野道夫さんの自然についての考えと通じるものがある。△△さんのような感じ方もあるのかと感動した。	・友だちの考えや感想については取り上げることがなく、自分の考えのみを述べている。	・友だちの考えや感想と、どのようなところが同じか、あるいは異なるかに着目してメモをするヒントカードを持たせておく。ヒントカードをもとに振り返りを書かせる。

読むこと		中学校 第【1】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること。 オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにする。 						
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) オ 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。 						
言語活動	説明の文章を読み、理解したことや考えたことを文章にまとめる活動							
単元名	文章を要約して、人間の生活と生き物や環境との関わりを伝えよう							
教材	『幻の魚は生きていた』(光村図書)、『終わりなき侵略者との闘い―増え続ける外来生物―』(小学館クリエイティブ)、『ホットスポット最後の楽園』(NHK出版)など人間の生活と生き物や環境との関わりについて書かれた書籍・新聞記事等							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力) : 単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・図)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)	3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)				
・事実と意見を 読み分け、中心となる 文に着目すること で文章が要約できる。	・「紹介シート」で伝えるという 目的に応じて文章を読んで 要約し、生き物と環境との 関わりについて考えたことを まとめる活動。 (「紹介シート」には、目的 に応じた文章の要約と、それ を根拠とした自分の考えが記 事としてまとめられている。 また、複数の事例が記事とし てまとめられ、自分の考えを 補強しているものを想定する。)	・「紹介シート」の記 事を書くために文章を 読み、原因と結果、意 見と根拠など情報と情 報との関係を理解して 整理している。	・「紹介シート」作りに向けて、 生き物と環境との関わりについて 書かれた文章を読み、必要な 情報に着目して要約し内容を 捉えている。 ・文章を読んで理解したことに 基いて、人間の生活と生き物 や環境との関わりについて自 分の考えを持っている。	・生き物と環境との関わりにつ いて考えたことを地域の大人 たちへ伝えるために、進ん で本を読み必要な情報を得 たり、活用したりしている。				
必要な読むこと の能力		<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に着目しながら、考えとその理由・事例との関係について叙述を基に捉えること。 ・事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。 						
時間	学習 過程	学習活動	評価事例					
			評価資料 【観点】 ・(場面・方法)	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)
			判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
見 通し の 構 造 と 精 査	○教師自作の「紹介シート」を基 に、生き物と環境との関わりにつ いて考えたことを地域の大人たち へ伝えるという単元の学習目標を 持ち、学習計画を立てる。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	モデルから、人間の生活と生き物や環境との関わりを伝えることに関心を持ち学習計画を立てようとしている。					
精 査・ 解 釈	○段落構成や文末表現に着目し て、「意見」「事実(根拠)」「理 由付け」についてそれぞれ要 約する。	【知識・技能、読む能 力】 ・ワークシート(付箋 の言葉)	クニマスと環境との 関わりを伝える紹介 シートを書くため に、文章中から「意 見」「事実(根 拠)」「理由付け」 となる叙述を見つ け、付箋に書き出 してあり、その半 分以上が妥当である。	(例)筆者の意見 ・産卵場所も含めた湖全体の環 境を守ることが必要だ。 ・バランスを保って共存してい くことが大切である。 ・現実を踏まえ、少しずつ歩い ていかなければならない。	クニマスと環境との関 わりを伝える紹介シ ートを書くために、文 章中から「意見」「事 実(根拠)」「理由付 け」となる叙述を見 つけ、付箋に書き出 してあり、その8割 以上が妥当である。	(例)事実 ・こうしてクニマスは、 人の手による環境の改 変によって、他の多く の生物とともに田沢湖 から姿を消した。そし て… ・こうした偶然の一致 によって、田沢湖で絶 滅したクニマスは、遠 く離れた湖底で脈々と 命を繋いでいたのだ。	「事実」・「意見」・ 「根拠」の弁別が不 十分なまま、付箋に 書き出している。	・文末表現の働きを 示したヒントカード を示す。
考 え の 形 成	*要約した文章を基に、「共感す るところ」を中心に自分の考えを 記事にまとめる。	【知識・技能、読む能 力】 ・紹介シート(記事 の言葉)	筆者の「意見」とな る記述を1つ取りあ げて、共感する理由 を記事にまとめる。	「バランスを保って共存してい くことが大切である」という ところに共感する。なぜなら、 一つの種だけを優遇すれば、 他の生態系に影響を与え、 田沢湖のクニマスと同じ運 命を辿る生き物がで てしまうからだ。	筆者の「意見」となる 記述を複数取りあげ て、同感する理由を 記事にまとめている。	(Bの記述に加えて) また、「現実を踏まえ、 すこずつ歩いてい かなければならない」と いうところにも同感す る。なぜなら、環境を 一度変えてしまうと 戻すには莫大な時間 がかかるもの、不可 能とは言えないから だ。	自分の考えは述べて いない、筆者の「意 見」を書いている。	前時に色分けした付 箋の中で「意見」にあ たるものを一緒に確 認する。その上で、 どの箇所にも最も共 感するか選択するよ うに促す。
構 造 と 内 容 の 把 握・ 精 査・ 解 釈	○自分の考えを補強するた めに、他の動物を選び、引用 要約して自分の考えをまと める。 *「意見」「事実(根 拠)」「理由付け」の3つ を付箋に書き出す。	【知識・技能、読む能 力】 ・ワークシート(付箋 の言葉)	自分が選んだ動物と環 境との関わりを伝 える紹介シートを 書くために、文章 中から「意見」「事 実(根拠)」「理由 付け」となる叙述 を見つけ、付箋に 書き出している。	・「意見」「事実」「理 由付け」のそれぞれ の記述が半分以上 妥当。	自分が選んだ動物と環 境との関わりを伝 える紹介シートを 書くために、文章 中から「意見」「事 実(根拠)」「理由 付け」となる叙述 を見つけ、付箋に 書き出している。	・「意見」「事実」「理 由付け」のそれぞれ の記述が8割以上 妥当。	「事実」・「根拠」 の弁別が不十分な まま、付箋に書き 出している。	文末の述べ方や段 落相互の関係に着 目させ、一緒に読 みながら考えてい く。
考 え の 形 成	*要約した文章を基に、人間の 生活と生き物や環境との関わり について、さらに考えたことを 記事にまとめる。	【知識・技能、読む能 力】 ・ワークシート(記事 の言葉)	クニマスとそのほか の動物を一種挙げ ながら、その動物に 起きた事実を基に、 生き物の環境との 関わりについて自 分の考えをまと めている。	クニマスは人間による 環境変化で姿を消 した。キツネザル もまた人間の手で 生態系のバランス を壊したことで絶 滅につながった。 これらの話を読み、 人間による環境 変化が動物たちに 与える影響はとて も大きく、一度改 変された環境を元 に戻すには大変な 時間と労力がかか ることがわかった。 自らの行為が生き 物や環境に与える 影響を考え抜くこ とや、もっと自 分の知識を高めて いくことが必要 だと考えた。	クニマスとその他の動 物を2種以上挙げ ながら、それらの 動物に起きた複 数の事実を基に、 生き物と環境との 関わりについて自 分の考えをまと めている。	(Bの記述に加えて) ・オオカミの事 実	生き物と環境との 関わりについて、 自分の考えがまと められていない。	友達の発言を聞 いたり、参考に させたりしながら まとめられるよ うにする。
共 有	○書き上げた紹介文を読み 合い、目的に応じた要約の仕 方や、考えの確かさの点 から相互評価する。 ○単元全体を振り返り、 新たな課題を見出す。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	省略					

読むこと		中学校 第【1】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	① オ	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。 ・文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにする。					
	【知識・技能】	(1) オ	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使い、語感を磨き語彙を豊かにすること。					
言語活動	小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動							
単元名	「本のおすすめレター」で『少年の日の思い出』の魅力を伝えよう							
教材	『少年の日の思い出』（光村図書）							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度			
・場面の展開に沿って、登場人物の心情が変化していく。また、語り手や描写の仕方に着目すると作品世界をより深く味わうことができる。	・作品の魅力を「おすすめレター」で紹介するために、「心に残った場面とその理由」「印象深かった描写とその理由」などの観点に沿って読み、考えたことや感じたことを叙述を根拠にまとめる。	・小説に出てくる言葉の文脈上の意味を理解している。 ・「おすすめレター」を作るにあたり語彙を増している。	・「おすすめレター」を書くために物語を読み、自分にとって印象深かった描写の効果について、根拠を明確にして捉えている。 ・文章を読んで理解したことに基いて、「少年の日の思い出」の魅力について自分の考えを持っている。		・文章を読んで、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。			
必要な読むこと的能力		・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。						
時間 学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 (場面・方法)	評価事例					
			おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
第一次 ①	○教師が既習の教科書教材を使って作った「おすすめレター」を見て、作品の魅力を紹介するという単元の学習目標を持ち、学習計画を立てる。 ○「少年の日の思い出」を読み、初読の感想をまとめる。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	判断基準	Bと評価する例	判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
第二次 ②	○登場人物の相互関係を、文章の展開に沿って整理する。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート (人物関係図の記述)	登場人物の相互関係を作品中の描写を基に捉えて説明している。	・「僕は悪漢だということに決まっちゃい、エーミールは…世界のおきてを代表…」とあるように、「僕」はエーミールの嫌いな人物だと思っています。蝶の事件をきっかけに二人の間には決定的な壁があることがわかります。	登場人物の相互関係を、プロローグ、回想部に分け、3つ以上の描写を根拠として挙げて説明している。	・僕は妬み、嘆賞しながら彼を憎んでいた。 ・あの模範少年 ・彼は罵りさえしなかった こうした描写から元々少年時代の「僕」は、エーミールに対してコンプレックスを抱いていました。エーミールから自分は軽蔑されているだろうと思っていたことがわかります。そして蝶の事件をきっかけに「僕」から見て二人の間には決定的な壁ができてしまったのだと思います。大人になった今もそのときの苦い思いが残っているからこそ、「わたし」に話したのです。	「僕」に関する描写と「エーミール」に関する描写の読み分けが不十分である。	・呼称、行動、会話などに着目させながら一緒に読んで考える。
第三次 ③	・「最も心惹かれた場面とその理由」について考えをまとめる。 (このとき登場人物の心が動いた)	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート (心惹かれた場面の理由の記述)	最も心惹かれた場面について、前の場面からの心情の変化に着目して、作品中の描写を基に説明している。	私は「僕の良心は目覚めた」という場面が最も心惹かれました。蝶に夢中になっていて「大きな満足感のほか何も感じていなかった」僕が初めて罪の意識にかられ、決断を強いられる場面だからです。	最も心惹かれた場面について、プロローグや前後の複数の場面での心情変化に着目して、描写を基に説明している。	私は「僕の良心は目覚めた」という場面が最も心惹かれました。それまで「僕」はエーミールがクジャヤママユを手に入れたと聞いてから「すっかり興奮」してしまい、盗みを犯してしまった後も「大きな満足感のほか何も感じていなかった」とあります。そんな僕が初めて罪の意識にかられ、決断を強いられる場面だからです。それは、大人になった今でも「僕」の心に消えずにある、だからこそ、こうやって詳しく回想をしたのだと読者に感じさせる場面だからです。	・心惹かれた場面の理由として、その場面の状況を取り上げ、自分の主観(好悪)を述べている。	・気になった人物の言動に着目させる。 ・その場面の前後ではそのような出来事が展開しているか整理する。(一覧で示すなど)
第四次 ④	・「最も印象深かった描写とその理由」について考えをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート (印象深かった描写の理由の記述)	印象深い描写を一つ挙げ、それがどのような効果を生み出しているのか、叙述を基に意味付けを考えて説明している。	私には「かえるが、遠くから甲高く、闇一面に鳴っていた」という描写が印象的でした。「闇一面」という言葉から、これからする話が明るい話ではないことを示していると思っただけです。	印象深い描写を一つ挙げ、それがどのような効果を生み出しているのか、前後の場面との関わりを意識して叙述を基に意味付けを考えて説明している。	私には「かえるが、遠くから甲高く、闇一面に鳴っていた」という描写が印象的でした。「闇一面」という言葉が明るい話ではないことを示していると思ったからです。そう暗示した通り、この後自らの少年時代の苦い思い出が静かに語られています。思い出話の冒頭をうまく表した描写ではないでしょうか。	・「描写」の理解が不十分なまま、気に入った表現を選んでいく。	・「描写」と「説明」の違いや、「行動描写」、「情景描写」などを例を挙げて説明する。
第五次 ⑤	○これまでの学習を振り返り、「少年の日の思い出」の魅力を伝える「おすすめレター」を書き上げる。 (視点) 人物の相互関係/描写や場面/展開	【知識・技能、読む能力】 ・「おすすめレター」の記述	〈視点〉から一つ選び、作品の魅力について「おすすめレター」に自分の考えをまとめている。	この作品の魅力は優れた情景描写にある。「少年の日の思い出」では…のように物語の展開を暗示するような描写がうまく取り入れられていた。	〈視点〉から一つ以上選び、作品の魅力について「おすすめレター」に自分の考えをまとめている。	(Bの記述に加えて) また、客の話聞いた私の語りで終わることで、その後の展開を読者に想像させることに成功している。	・視点を絞って作品の魅力を説明することができていない。	・初読の感想を見返して自分の考えの変遷を振り返るように促す。
第六次 ⑥	○書き上げた「おすすめレター」を互いに読み合い、単元全体を振り返り新たな課題を見出す。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	省略					

読むこと		中学校 第【2】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】 ・エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。 ・オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。							
	【知識・技能】 ・(2)ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。							
言語活動	報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめる活動。							
単元名	2つの説明文を読み比べようー説明文のより良い構成や展開、表現の効果を考えるー							
教材	モアイは語るー地球の未来(光村図書2年) 流氷と私たちの暮らし(光村図書1年)							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
・題材の選び方、文章の構成や展開、読み手を意識した説明の仕方などどのような工夫があるかということ。	・説明文の構成や展開、表現の仕方について考えを深めるために、2つの説明文を読み比べ、共通点や相違点について具体的に示しながら自分の考えをまとめる。	1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)			3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)		
		・判断や考えを示す意見や裏付けるためのより適切な根拠について理解している。 ・目的に応じて具体と抽象を使い分けられていることを理解している。	・2つの説明文の構成や論理の展開、表現の効果と比較して、共通点や相違点を具体的に指摘し、より良い説明文について自分の考えをまとめている。 ・より良い説明文について考えたことを他者の考えと比較することで、より確かなものにしたり、新たな視点をもつことにつなげている。			・2つの説明文の構成や論理の展開、表現の効果と比較して、共通点や相違点を具体的に指摘し、より良い説明文について自分の考えをまとめるようにしている。 ・より良い説明文について考えたことを他者の考えと比較することで、より確かなものにしたり、新たな視点をもつことにつなげようとしている。		
必要な読むこと的能力		・筆者の題材の選び方、文章の構成や展開、説明の仕方比べ、共通点や相違点について具体的に示している。 ・より良い説明文の書き方について、2つの説明文の書き方を根拠として自分の考えをまとめている。						
学習過程	学習活動	評価資料 【観点】	おおむね満足 (B) Bと評価する例		評価事例 十分満足 (A) Aと評価する例		努力を要する (C) 支援の手立て	
1	○2つの説明文を比べて、一方の論の進め方についてその良さを説明する。学習の見直しをもつ。 ○2つの説明文を通読する。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	2つの説明文を読み比べて、筆者の論の進め方について考えることに関心をもち、学習計画を立てようとしている。					
2・3	○2つの文章について、それぞれ筆者の論の進め方について自分の考えをもつ。	・ノートに整理された論の進め方に関する記述	・段落ごとに要点を捉え、筆者の主張や根拠、論の進め方について考えたことをまとめている。	【ア：流氷と私たちの暮らし】 ＜主張・根拠(事実・事例)について＞ 主張…自然からの警告を見逃さないこと。 理由…自然と私たちの暮らしは深く関係しているから。 根拠…流氷の例 ＜論の進め方＞ ・自然からの警告の例として流氷を取り上げ、3つの視点から流氷の役割について説明し、主張につなげている。 ＜考えたこと＞ ・主張の根拠として、流氷を例に挙げ、人間につながる流氷の役割を3つの視点から具体的に述べているので、主張がより説得力のあるものになっていると考えた。 【イ：モアイは語る】 ＜主張・根拠(事実・事例)について＞ 主張…今ある有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならぬ。 理由…資源を使い切ってしまったら、人類が滅びてしまうから。 根拠(事例)…イースター島の例(文明の滅亡) ＜論の進め方＞ ・イースター島の文明について(事例)示し、そのことを現在の地球の状況に関連付けて、主張につなげている。 ・文明が減んでいく過程(事例)を、問いと応答を繰り返すことで、時間の流れに沿って説明している。 ＜考えたこと＞ ・主張の根拠として、イースター島の事例と現代の人口増加とを関連付けて説明しているのので、歴史的な問題を自分たちの問題としても捉えやすく、主張がより説得力のあるものになっていると考えた。	・B評価の内容に加えて、これまでの読書経験を関連付けて述べている。	・どちらの説明文も序論で主張につながるメッセージが入っているところは同じだと思う。具体的には、アでは「流氷は私たちの暮らしにも深くつながっている」イでは「実は、この絶海の孤島で～とても大きな問題を投げかけているのである」という部分である。1年生の時に読んだ「幻の魚は生きていた」も同じような書き方になっていたことを確かめた。	・文章全体の大きな内容を捉えることはできている。	・文末の述べ方や段落中のキーワード、段落相互の関係に着目させる。
4	○2つの文章の論の進め方、表現の効果について、それぞれ気付いたことを具体的に挙げて比べ、共通点や相違点を見つける。	・ノートに整理された共通点と相違点についての記述	・共通点、相違点について、それぞれ1つ以上述べている。	＜共通点＞ ・序論で主張につながるメッセージが示されている。 ・出だして読み手の興味を誘う工夫がある。具体的には、アの場合は、「流氷の誕生である」「壮大な自然のドラマである」と宣言し、イは「君たちはモアイを知っているだろうか」と疑問を投げかけている。 ＜相違点＞ ・アは、事例を現在の自然から取り上げており、イは、古い歴史(文明)から取り上げている。	・共通点、相違点について、それぞれ2つ以上述べている。	(Bの内容に加えて) ＜共通点＞ ・読み手に興味をもたせる題名にしている。 ・一見すると私たちとは関係がなさそうな事例を示すことで、実は自分たちに深く関係しているという意外性をもたせることで主張に説得力が増すようにしている。 ＜相違点＞ ・結論にある最後の文の文末表現に違いがある。アでは「第一歩となるだろう。」と推定の表現であるが、イでは、「道なのである。」と言い切っている。	・2つの説明文について筆者の主張や根拠については捉えることができている。	・前時に作成したワークシートや文末表現、接続詞に着目させる。
5	○2つの文章から1つを選び、書き方の良さについて具体的な箇所や文章の展開の仕方を挙げて考えをまとめる。	・ノートに書かれた選んだ理由についての記述	・選んだ理由について、2つ以上理由を挙げて述べている。	＜選んだ文章＞ イ ＜選んだ理由＞ ・イースター島で文明が生まれてから滅ぶまでの様子が、時間の順序に沿って、問いに答える形で具体的に述べられており、滅びの原因を理解しやすいから。 ・イースター島の事例に続けて人口問題など現代の問題も示されているので、イースター島の出来事を教訓として自分たち引き寄せて考えやすい文章になっているから。	・選んだ理由について、3つ以上理由を挙げて述べている。	(Bの記述に加えて) ・1年生の頃に読んだ「幻の魚は生きていた」の文章もイの文章のように、序論の中で先に問題提起をしていた。私は、このような書き方の方が読み手が問題意識や興味をもって読み進めることができるのでよいと思う。 ・地球を「広大な宇宙という漆黒の海にぽっかりと浮かぶ青い生命の島」と例えており、絶海の孤島イースター島とより重ねて考えやすくしている。	・筆者の主張に対して、感づいている。	・前時までの学習を振り返らせ、どのような工夫が読者の興味を引き、分かりやすい説明文とつながるのか確認させる。
6 共有	○前時にまとめた考えについて、同じ説明文を選んだ人、違う文章を選んだ人とそれぞれ意見を交換し、気付いたことをや考えたことをノートに整理する。	・振り返りの記述	・文章を読んで理解したことを、他者の考えと比較することでより確かなものにしたり、新たな視点をもつことにつなげている。	・私は、具体例の内容や比喩表現に着目して自分の考えを述べるだけだったが、○○さんは、序論の中で題名や結論に関する言葉を入れることで、読み手が最後まで問題意識をもって読むことができるよう工夫されていると指摘していた。ぜひ、○○さんの視点でも他の説明文を分析してみたいと思った。	・文章を読んで理解したこと、を、複数の他者の考えと関連付けることで、より確かなものにしたり、新たな視点をもつことにつなげている。	(Bの内容に加えて) ・ただし、イの文章についてもアの文章のように身近なものに例えたり、グラフや図を用いることでより分かりやすい文章になるのではないかと思う。読み手によって変わってくると思うので、子ども向けや専門家対象の説明文との違いについても知りたいと思った。	・説明文の書き方について分かったことではなく、交流会の感想のみ書いている。	・交流の視点を確認させる。単元の目標とこれまでの学習記録を振り返らせる。

読むこと		中学校 第【2】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	イ 登場人物の言動の意味について考え、内容を解釈すること。 オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすること。						
	【知識・技能】	(1) エ 抽象的な概念を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにすること。						
言語活動	小説を読み、考えたことなどを伝え合う活動							
単元名	「走れメロス」のエッセンスはここだ！～作品全体と場面との関わりに着目し、魅力を伝えよう～							
教材	「走れメロス」(光村図書)、「人質」(シラー作 小栗孝則訳)							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動 読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
一つの場面が作品全体の雰囲気や登場人物の人物像に関わっていること。	「走れメロス」の魅力を紹介するために、「人質」と比較して「私のオスメの場面とその理由」の観点に沿って読み、考えたことを叙述を根拠にまとめる。	小説に出てくる言葉の文脈上の意味理解。 語彙の増加。	「走れメロス」と「人質」とを比較して読み、登場人物の言動が話の展開にどのように関わっているかについて叙述を根拠にしてまとめる。 小説を読み理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、「走れメロス」の魅力について自分の考えを広げたり深めたりしている。		文章を読んで、感じたことや考えたことを他者と伝え合おうとしている。 関連図書をさらに読もうとしている。			
必要な読むこと的能力		場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像すること。 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 文章を読んで感じたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくこと。 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。						
時間	学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 (場面・方法)	評価事例				努力を要する(C)
				判断基準	おおむね満足(B)		十分満足(A)	
1	学習の見直しをもつ	○図書室で行われる「秋の読書フェア」に向けて、『走れメロス』の魅力伝える文章を書くという単元の学習目標を持ち、学習計画を立てる。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	・モデルから、物語を読むことや解説文を書いて紹介することに関心を持ち学習計画を立てようとしている。				
2,3	構造と内容の把握	全文を読み、お気に入りの人物について解説する。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート(お気に入りの人物を解説する記述)	お気に入りの人物について、その設定が「人質」とどのように異なるかを比較して解説している。	私が気に入った人物はセリヌンティウスだ。『人質』では「友」「親友」としか書かれていなかったセリヌンティウスに、『走れメロス』では「石工」という職業が設定されている。固い石を砕き削る石工という職業から、困難から逃げずに立ち向かう姿が想像され、メロスの親友に相応しい人物だとあらためて確認する言葉ができた。	お気に入りの人物について、その設定が『人質』とどのように異なるかを比較し、その意図について自分の考えを述べている。	私が気に入った人物はセリヌンティウスだ。『人質』では「友」「親友」としか書かれていなかったセリヌンティウスが、『走れメロス』では「石工」という設定になっている。固い石を砕き削る石工という職業を設定したことから、作者の太宰自身の、自分の人生から逃げずに困難に立ち向かおうとしている心情が窺える。	『人質』と『走れメロス』比較表を示す。
4		・最も印象的な言動とその理由について自分の考えをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート(お気に入りの場面の理由の記述)	・最も印象的な言動とその理由について、『人質』と『走れメロス』を比較し、その言動と作品全体における人物像との関わりについて叙述を基に自分の考えをまとめている。	『人質』には妹の結婚式の後、メロスが休む行動がない。一方で『走れメロス』の方は「…」というように気が抜けて油断した様子が描かれている。『人質』の方のメロスはぶれずに任務遂行する人物なのに対して、『走れメロス』のメロスは人間らしい弱さを抱えた人物であると言える。そのメロスの弱い一面を描くことで、メロスの持つ本質的な勇気が際立つように思う。	・最も印象的な言動とその理由について、『人質』と『走れメロス』を比較し、その言動と作品全体における人物像との関わりについて複数の叙述を基に自分の考えをまとめているとともに、作者の意図についても考えている。	・(Bの記述に加えて)大地主の息子に生まれ何不自由ない暮らしができる太宰は、逆に自分のひ弱さを痛感している。でもそんな自分にも、誰かを守り通す勇気があることをメロスを通して確認したかったのではないだろうか。	・登場人物の一つの言動を取り上げて、その場面についての感想を書いている。 ・気になった人物の『人質』に比べて『走れメロス』にある言動を挙げさせ、そこでの心情変化や後の展開への影響を一緒に考える。 ・「ここで○○が～～しなかったら…人物だった」という説明の話型を示して考えさせる。
5	精査・解釈・考えの形成・共有	・最も印象深かった場面とその理由について自分の考えをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート(印象深かった場面とその理由の記述)	・最も印象深かった場面とその理由について、『人質』と『走れメロス』とを比較し、その場面と作品全体の解釈との関わりについて叙述を基に自分の考えをまとめている。	『人質』の中には任務を投げ出そうとする弱い姿が描かれていない。しかし『走れメロス』はあえて弱く諦めそうになる人間メロスの姿を何度も描いている。特に、メロスが清水を一口飲む直前まで自分を嘲る場面は、友を信じる心は完璧な人の理想的な信念として常に発揮されるというものではないという考えを示すとともに、ラストシーンの感動をより高める効果があると考える。	・最も印象深かった場面とその理由について、『人質』と『走れメロス』とを比較し、その場面と作品全体の解釈との関わりについて複数の叙述を根拠として挙げて自分の考えをまとめるとともに、作者の意図についても考えている。	・(Bの記述に加えて)親の庇護を受けながらも、世の中の理不尽さを多く見てきた太宰は、それでも最後はよきもの、美しきものが勝ってほしいという願いを強くもっていたのではないだろうか。	・印象深かった場面について、その場面の感想を書いている。 ・『人質』に比べて『走れメロス』にある場面を挙げさせ、そこでの心情変化や後の展開への影響を一緒に考える。 ・「ここで○○が～～しなかったら…人物だった」という説明の話型を示して考えさせる。
6		・『走れメロス』の魅力について自分の考えをまとめる。	【知識・技能、読む能力】 ・ワークシート(作品の魅力についての記述)	・『走れメロス』の魅力について、観点を一つ定め、『人質』と比較して自分の考えを説明している。	『走れメロス』の魅力は何といっても語り口にあるだろう。『人質』(訳文)を基にした文章は、一文が短く引き締まった感じを受ける。情景やメロスの心情がテンポよく変化していき、読者は最後まで一気に読み通してしまう。一人称で語られることが多い太宰の作品のなかでは異色の作品である。	二つ以上の観点から説明している。	・(Bの記述に加えて)美談を描ききったところである。『人質』にはない、「メロスとセリヌンティウスの殴り合い」や「少女とマント」などを書き加え、人間の持つ友情や純真さを明確に描き出している。それらは、太宰にとっても現実にはあり得ないとしても望んだものだったのだろうか。	・特に観点は定めず、「走れメロス」について感じたことや考えたことを書いている。 ・双方の作品に共通する良さを見つけるように促す。 ・見つけた良さが効果的に伝わる描写と一緒に選ぶ。
7	考えの形成	○書き上げた解説文を互いに読み合ったり、秋の読書フェアで返ってきたコメントを読んだりして、単元全体を振り返り新たな課題を見出す。	【主体的な学習態度】	・他の文学作品においても、その作品の基になる文章等がないか調べてみたい。複数の作品を比べ読みしてみたい。 太宰治の他の作品も読んでみたい。太宰治と同時代の作家の作品も読んでみたい。				

読むこと		中学校 第【3】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。 エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。						
	【知識・技能】	(2)ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。						
言語活動	論説や報道などの文を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。							
単元名	新聞の社説を比較しよう—主張や論理の展開、表現のしかたを評価する—							
教材	2013年10月の新聞2紙 (3年 光村図書)							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
<ul style="list-style-type: none"> 同じ話題でも論説によっていろいろな見方や考え方が書かれており、一つの見方だけでなく複数の論を比較し、評価すること。 主張や論理の展開、表現の仕方についての考えを深めるために、2つの論説を読み比べ、論理の展開や表現の仕方についてどのような効果があるのか根拠に基づいて判断する。 判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠について理解している。 目的に応じて具体と抽象が使い分けられていることを理解している。 主張や論理の展開、表現のしかたについて2つの社説を比較して、書き手の考えを正確に伝えたり、読み手の共感を得たりするために有効であるか、根拠に基づいて判断している。 社説を読んで考えたことを他者の考えと比較するなどして、自分の考えを広げたり深めたりし、無形文化遺産「和食」について自分の考えをまとめている。 		<ul style="list-style-type: none"> 2つの社説を読み比べて、筆者の主張、論の進め方、表現のしかたについて評価しようとしている。 						
必要な読むこと的能力		<ul style="list-style-type: none"> 主張や論理の展開、表現の効果について根拠を明確にして考えをまとめること 観点を明確にして文章を読み比べること 						
時間 学習過程	学習活動	評価資料 【観点】 ・(場面・方法)	評価事例					
			判断基準	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)	努力を要する (C)	
1	○2つの社説を比べて、一方の論の進め方や表現のしかたについて評価するという、学習の見通しをもつ。 ○2つの社説を通読する。	【主体的な学習態度】 ・振り返りの記述	2つの社説を読み比べて、筆者の主張や論の進め方について評価することに関心をもち、学習計画を立てようとしている。					
2	○2つの社説を評価するために、観点を決めてそれぞれの特徴を整理する。	・評価するために定めた観点とその内容	・観点を3つ決めてそれぞれの特徴についてまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> <①主張について> 【ア】私たちが和食の魅力について知り、その価値について語れるようにしよう。 【イ】無形文化遺産登録を契機に日本は改めて「食」を守る社会づくり」に取組むべきだ。 <②論の進め方について> 【ア】起承転結が明確な構成である。冒頭と終末の段落で主張を述べている。 ・起…話題と主張の提示 ・承…和食のもつ魅力についての事例 ・転…和食が抱える問題についての事例 ・結…主張の繰り返し 【イ】序論・本論・結論の三部構成である。 ・序論…問題提起 ・本論…問いの解明 ・結論…主張 <③見出しについて> 【ア】呼びかけ表現「もっと魅力を味わおう」 【イ】問いかけ表現「和食の真価は何か」 	・観点を4つ以上決めてそれぞれの特徴についてまとめている。	<ul style="list-style-type: none"> (Bの内容に加えて) <④文末表現について> 【ア】断定的な表現が多い。「～がある。」「いい。」など 【イ】推定的な表現が多い。「そう多くはない。」「～だろう」など <⑤語句について> 【ア】肯定的な語が多い。「魅力」「誇るべき」など 【イ】抽象的な語が多い。「共生」「信頼」「再生」など 	・観点を定めず、社説を読んで気付いたことをそのまま書いている。	・既習事項を想起させたり、友達の観点を参考にさせたりして、それぞれの文章の特徴について整理させる。
3	○選んだ社説の良さについて根拠を明らかにして、考えをまとめる。	・ノートに書かれた選んだ根拠についての記述	・根拠を2つ挙げて述べている。	<ul style="list-style-type: none"> <選んだ社説>ア <根拠> ①論の進め方が分かりやすい。 ・起承転結の形で論が進んでいる。自分も起承転結を考えながら意見文を書くこと整理しやすかったから。 ②事例が身近なものである。 ・和食の特色が実生活や家庭科で学んだことにつなげて理解しやすい。 ・アンケート結果を取り上げ、問題点について説得力がある。 	・根拠を3つ以上挙げて述べている。	<ul style="list-style-type: none"> (Bの内容に加えて) ③主張が共感しやすい。 ・アは私たちの一人ひとりの課題として主張が述べられておりイメージしやすい。 ・「学校や地域で～受け継いでいく取り組みが欠かせない」と具体的に示されている。 ④見出しの表現が分かりやすい。 ・「もっと」「魅力」など語句が肯定的で平易であるので読みやすい。 ・「もっと魅力を味わおう」と呼びかけているので引き込まれやすい。 	・社説を読んで感じたことを書いている。	・前時に整理した主張や論の進め方の共通点や相違点について確認させる。
4	○新聞の社説を読んで評価したことを伝え合う。	・振り返りの記述	・文章を読んで評価したことを、他者の考えと比較することでより確かなものになったり、新たな視点をもつことにつなげたりしている。	・私は、事例が具体的に読みやすいかどうかという基準でしか選んでいなかったが、○○さんがイの社説の方が無形文化遺産としての「和食」についての私たちのものの見方や考え方を広げるには良いのではないかと意見を述べていて大変参考になった。確かに、イの方が「和食」の登録が経済や社会とどう関わっているのかという視点で述べられているので、多様な視点から物事を見ることの必要性にも気づくことができると考えた。	・文章を読んで評価したことを、複数の他者の考えと比較することで、より確かなものになったり、新たな視点をもつことにつなげたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> (Bの記述に加えて) ・○○さんが、イの工夫を用いて、アの論説の見出しを「世界への売り込みの前に」とした方が読み手の問題意識を高められるのではないかと述べているのを聞いて、大変納得した。また、私は、イの「世界遺産と違って～コミュニティである」という言葉から、無形文化遺産登録の重みを感じ、まずは自分で郷土料理について調べ、作ってみようと思った。 	・学習活動や意見交流の感想のみを書いている。	・だれのどんなものか見方や考え方によって自分の考えが確かななったり、新たなものになったりしたのか確認させる。

読むこと		中学校 第【3】学年						
重点指導事項 (新学習指導要領)	【思考力・判断力・表現力】	<ul style="list-style-type: none"> ウより 文章中の表現の仕方について評価すること。 エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。 						
	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> (1) イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 						
言語活動	・を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動							
単元名	・詩と写真を組み合わせて、平和の大切さを伝えるポスターを作ろう。							
教材	・「挨拶」							
何を学ぶか (教材の特性)	どのように学ぶか (言語活動) (読みの観点)	何ができるようになるか(資質・能力)：単元の評価規準						
		1 知識・技能 (伝・国)	2 思考力・判断力・表現力等 (読む)		3 主体的な学習態度 (国語に関する関心・意欲・態度)			
	平和について考えた自分の意見を表現するために、ふさわしい詩を選び、その詩は何を伝えようとしているのかを詩の中の言葉を根拠に説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 詩に使われている言葉について理解する。 自分の考えを表すのにふさわしい詩を一編選ぶために、様々な詩を読み比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者が詩に使っている言葉や表現の工夫に着目し、その意味を考えながら自分の考えと比較する 作者の戦争や平和にたいする思いを詩から読み、自分は今の平和をどう考えているのかを表現する 		<ul style="list-style-type: none"> グローバル平和について考えた自分の意見を表現するために、言葉をよりどころにしなが、ふさわしい詩を選ぼうとする。 			
必要な読むこと的能力		<ul style="list-style-type: none"> 観点を明確にして、表現の効果について考えること。 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。 						
時間 学習過程	学習活動	評価事例						
		評価資料 【観点】	おおむね満足 (B)		十分満足 (A)		努力を要する (C)	
		判断基準	Bと評価する例		判断基準	Aと評価する例	判断基準	支援の手立て
1	見通し 学習の目的や内容などの見通しをもつ	・教師作成のポスター(モデル)から、「詩と写真を組み合わせて読ポスターを作る」という単元の見通しをもつ。						
2 3	精査・解釈 「挨拶」を読んで、詩のもつメッセージについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述 発言の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 比喩や象徴的な言葉を三つ以上関連付けて、詩のもつメッセージについて自分の考えを述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「すがすがしい朝の顔」「りつぜんとした」「やすらかに美しく油断していた」の表現から、原爆(戦争)は、なんの余地も与えず一瞬にして平和を人間の存在を奪い尽くす恐怖以外の何ものでもないというメッセージが伝わってくる。「すがすがしい」「やすらか」「美しく」という言葉が逆説的に原爆(戦争)の惨たらしさを効果的に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 比喩や象徴的な言葉を五つ以上関連付けて、詩のもつメッセージについて自分の考えを述べる。同時に、原爆をテーマにした他の詩と比較して考えたことを述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「午前八時十五分は毎朝やってくる」「すがすがしい朝の顔」「りつぜんとした」「いま在る」「やすらかに美しく油断していた」の表現から、今の私たちが過去からどれだけ真摯に学ぼうとしているのか厳しく問われているように感じる。学び考え続けられない人間は同じ過ちを繰り返しかねないと訴えているようだ。原爆の詩には、もっと直接的で説明的な表現ものも多くあるが、現代の幸せな「顔」を対比させた「挨拶」の詩は、今在る私たちに戦争の恐怖だけでなく、戦争を起こさない責任をより強く感じさせる詩だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「焼けただれ」や「原爆」「戦火の後」など戦争に直接つながる表現を取り上げ戦争の恐ろしさなどについて述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 象徴的な表現、暗喩などについて、例を挙げながらその効果等を説明する。
4	考えの形成 ・前時に考えた詩のメッセージを伝えるために最も効果的な写真との組み合わせについて自分の考えをもつ。 (3枚の内から1枚を選ぶ。)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を選んだ理由を詩の中の言葉とつなげて述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「現在の広島市の街にたたずむ原爆ドーム」の写真を選んだ。「やすらか」で「美しい」現在の広島市の街に立っている「原爆ドーム」は、そこだけ、戦争(原爆)のむごたらしさを今に伝えている。「すがすがしい」朝にあっても、あの日の朝を忘れないためにも、この写真が相応しいと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を選んだ理由を詩の中の言葉と自分の経験を関連付けて述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「現在の広島市の街にたたずむ原爆ドーム」の写真を選んだ。「やすらか」で「美しい」現在の広島市の街に立っている「原爆ドーム」は、そこだけ、戦争(原爆)のむごたらしさを今に伝えている。「すがすがしい」朝にあっても、あの日の朝を忘れないためにも、この写真が相応しいと考えた。原爆ドームの写真はたくさん見たが、撮影年が新しければ新しいほど、周りの風景が変わってくる。変わらない原爆ドームの形が、「同じ過ちを繰り返すな」と語っているようだ。一度広島で実際の原爆ドームを見てみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 詩の中の言葉と関連付けずに、写真を選んだ知勇について述べている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真と関連付けや詩の中の言葉を挙げさせる。
5	共有 ・同じ写真を選んだ者どうして意見を交換し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの記述 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いて、平和について自分の考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは、「現在の広島市の街にたたずむ原爆ドーム」の写真にうつつている、川について語ってくれた。川に流れている水そのものは毎日新しいものだけど、川そのものは、原爆が落とされたあの時から変わらずそこにある。私たち人間も、一人一人は毎日新しくそこにあるのだけど、人間のつながりはずっと昔からある。このつながりが正しいよりよきつながりで在り続けることが平和を広げつなげていくことだと考えさせられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いて、平和について自分の考えを深めるとともに新しい課題をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは、「現在の広島市の街にたたずむ原爆ドーム」の写真にうつつている、川について語ってくれた。川に流れている水そのものは毎日新しいものだけど、川そのものは、原爆が落とされたあの時から変わらずそこにある。私たち人間も、一人一人は毎日新しくそこにあるのだけど、人間のつながりはずっと昔からある。このつながりが正しいよりよきつながりで在り続けることが平和を広げつなげていくことだと考えさせられた。人間のよりよいつながりは、「直接的に戦争をしない」ということだけでなく、目の前の生活を大切に丁寧に扱うことではないだろうか。卒業までに中学生として「つながり」をよりよいものにする具体について考えてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えとの共通点や相違点を確かめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えについて、「ひと言コメント」を書くように促す。